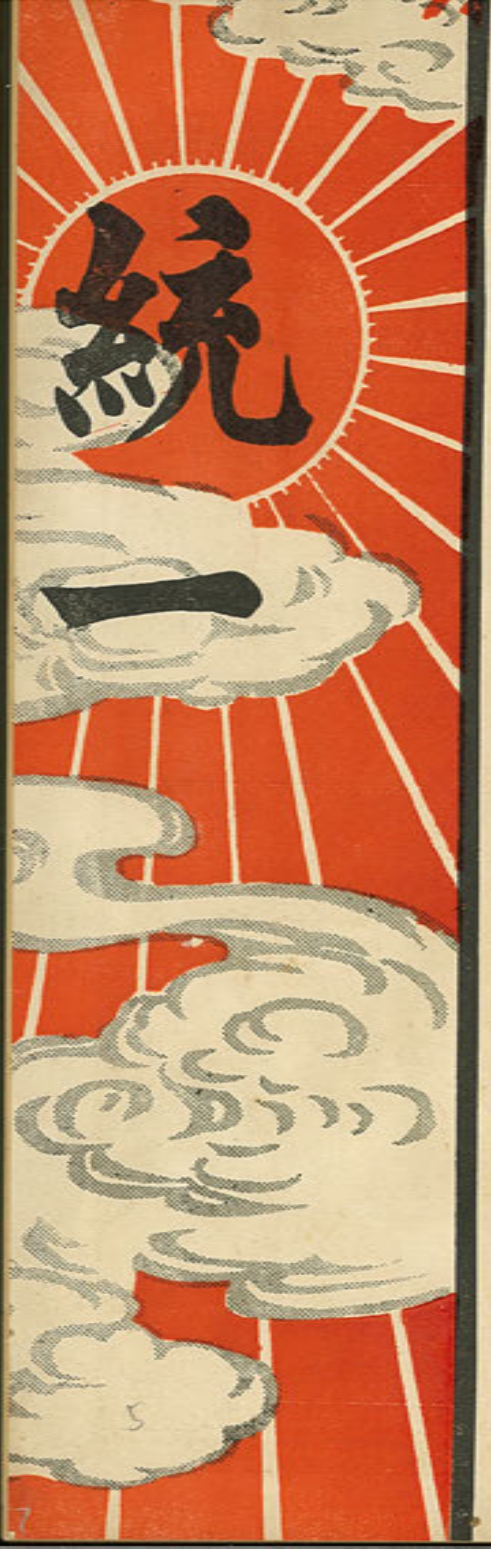


# 目次

年頭之感
醇厚和會……聖應院日生上人
自界叛逆難他國侵逼難（承前）……四王天延孝
記事
○統一團協贊會々報
○布教誌
○誌料領收

第三十七年一月號

# 年頭之感

東亞ノ風雲動テ百餘日　民國其背ヲ恃ミテ我鴻恩ヲ忘レ大義ヲ背テ近疎遠親ノ愚ヲ演ス　嗟拙哉夫レ日沒ノ老國

語曰ク『忘恩者徒ラニ才能アルモ鬼畜也』ト　唯物ノ魔魅滔々世ヲ靡シ沒義悖德ノ徒輩東西ニ橫溢シ南北ニ充逼シ腐臭復堪ヘズ　經曰ク『世尊未出時　十方常闇暝　三惡道增長　阿脩羅亦盛』ト立正大師云ク『天下世上於諸佛諸經　生捨離之心無擁護之志　仍善神聖人捨國去所　是以惡鬼外道故災致難矣』ト嗚　恐レズンバアル可ラズ言ハズンバアル可ラズ

黙テ惟ヘ百言ハ一行ニ如カズ　北滿凍結ノ天地　我生命線死守ノ萬餘ノ盡忠報國ノ將士默々祖宗擁護ノ大任ニ殉ズ　誰カ義憤血涙禁ゼン　見ヨ我青春ノ士女奮然蹶起以テ隨所愛國ノ擧作街頭ヲ壓ス　爰ニ祖宗三千年ノ純潔大和魂潑溂トシテ彌々顯動シ神洲ノ靈氣頓ニ燦然タルヲ覺ユ　嗚呼壯亦快ナラズヤ

立正大師ノ門下此機ニ接シ如何ノ覺悟ヲ以テ昭和壬申ノ新春ヲ迎フベキ歟　大師一代ノ行願ハ敎化ニ因テ自ラ大八洲ノ棟梁眼目タラントスルニアリ　恩師日生上人此旨ヲ紹テ正法ニ由リ國家ノ興隆ヲ劃ス

吾人ハ奈何ゾ此迎春ニ際シ一大勇猛心ヲ喚起セザル　宜シク　日生上人ノ意ヲ承ケ　立正大師ノ行願ト　祖宗三千年ノ氣魄ヲ以テ起タン哉　經曰ク『魔及ビ魔民アリト雖モ皆佛法ヲ護ラン』又釋曰ク『心ノ堅キニ因テ必ズ神ノ護リ强シ』ト　南無妙法蓮華經　南無妙法蓮華經

# 醇厚和會

聖應院日生上人

（本講演は一昨年夏、日生上人が統一閣に於て御講述遊ばされたもので、この新年劈頭に最も適應せる御示敎として有難く掲出させて頂く。一二、一〇謹記）

『醇厚和會』と題して聊か敎化に關する所見を申述べようと思ふのであります。この言葉は御承知の通り　今上陛下が即位の大禮を擧げさせ給うた際に、吾々國民に賜つた勅語の中に特に注意を要する御言葉であります。即ち今の日本に取つては敎化を醇厚にして民心を和會することが、國運を隆昌ならしめる第一の要件であるといふことであります。國運の隆昌を期する爲には、政治上の事、經濟上の事、社會上の事、國際上の事、いろ〳〵重要なる事柄がありますが、それ等の中に於て、敎化の事が最も大切であるといふことをお示し遊ばされた事は、吾々敎化に從事する者のみが注意する、有難くお受けをするといふのではなくして、即ち國民一般がこの聖旨を奉戴しなければならない。上は內閣諸公を初めとして、下國民一般がこの聖旨に基いて、敎化を醇厚にし、民心を和會するといふ一途に向つて大に力を致さなければならないと思ふのであります。

それに就て敎化を醇厚にするには、敎化の方針と申しますか、敎化そのものゝ實質を考へなければな

らないと思ふのであります。どういふ意味合に依つて國民を教化して行くのであるか、簡單に考へればそれはきまつて居ることであると言ひ得るのでありますけれども、それを少しく詳細に考へて見たいと思ふのであります。

この頃地方長官會議に際して文部大臣が訓示をせられた中に、やはり教化の大切な事を述べられて居ります。今申す勅語の趣旨を敷衍せられて、現代の弊害、その病源を辿ると唯物主義の禍ひである。又更に考へれば歐米の文化を容るゝに際して批判を誤つた爲に、その中の過激な方面が迎へられて來たのであるから、この弊を防ぐには東洋の精神文化を發揮しなければならない。唯物主義の病弊を矯めるが爲に、精神文化を高調し、歐米思想の害毒を除くが爲に、東洋文化を發揮しなければならないといふことを訓示せられて居るのであります。これは至極尤もに考へるのでありますが、偖てその内容は……といふことになると、地方長官が能く理解されたかどうかを心配するのであります。唯物主義の害毒といふことはわかつて居るが、精神文化といふのはどういふ事を言ふのであるか。精神文化といふのも廣い譯であるが、併しその中の主なるものはどうしても宗教的の意味合にまで進まなければ、唯精神文化と言つても氣の抜けたやうなものではないかと思ふ。

物質文化と精神文化の違ふのは、第一は人間の魂の事を考へない、吾々の生命といふものゝ永存價値といふことを考へないで、生きて居る間が勝負だといふ方からやつて行く所に、物質偏傾の文明といふものが起つて居るのであります。又宇宙を眺める上に於ても、たゞ科學的の形而下の知識に安んじて、それ以上の哲學的宗教的の觀念、即ち宇宙には生命があり、神佛のやうな偉大なるものが存在するといふことに就て、この大宇宙に對する敬虔の感情、ひとりでに頭の低がるやうな所を有つて居るか居らぬかといふことで、物質主義の文明と精神主義の文明が岐れるのではないかと思ひます。そんな事はかまはない、宇宙を眺めて頭を低げるやうなことはせぬでも宜しい、俯いて自分の魂の行末がどうだ、そんな事は考へなくとも宜いが、精神文明は大事だと言つたのでは、その精神文明は気抜けの精神文明となるのであります。その點に於て地方長官等は大臣の訓示を慈て聞られた譯であるけれども、能く理解されて居るかどうかといふことを甚だ懸念するのであります。無暗矢鱈に精神文明々々々々と言ひさへすれば宜しい、内容は……と言ふとわからぬといふのでは、餘りに滑稽な事ではなからうかと思ひます。

又東洋の文化といふこともチョット人聞きが宜しいけれども、東洋文化といふものは何を指して居るのであらうか。それは無論我國の神ながらの道も東洋の文化であり、儒教も東洋の文化、佛教も東洋の文化でありますけれども、現代の病弊を指摘しての上の東洋文化といふことに就ては、どうしても佛教が主なる問題とならざるを得ないのである。西洋の文化でも一通りの科學的知識や、その他一通りの事柄に就ては皆有つて居るのである。東西文明の大に異なるのは、佛教を加へた文明に於て、佛教が東洋

の哲學を有し、東洋の宗教を有し、東洋の倫理の根柢を有することに於て、佛教を加へたる東洋の文化といふものが、大に西洋の文化と異なるのであります。若しも日本の東洋文化を云云する人々が、佛教を輕視して居る、又これを度外して居るといふことであつたならば、それ等の人の口にする精神文化、東洋文化といふものは意義を成さないのではないかと考へるのであります。その點をいま少しく嚴密に考察する必要があると思ひます。

明治維新の改革の當初に於ては廢佛棄釋論といふものが盛に唱へられて、佛教を葬らんとしたその觀念といふものは宙に迷つて、今でもその儘になつて居るのであります。これが復活したとも言へるし、その儘放擲つてあるとも言はれる。どつちが本當であるかと言へば、今の日本は支配階級、政治家、殊に文部省といふやうな方面では、それはその儘に放擲つてあるといふ方が本當の事であります。廢佛棄釋論を徹底せしめて佛教を撲滅する意味でもなく、それは間違つて居つたからと言つて、翻然と悔悟して佛教復活の方針を立てたものでもない、頗る生煮の狀態で今日に來つて居るのである。それ故に普通の政治家、普通の教育者の頭腦といふものは、佛教に對しても反對するが如く、せざるが如く、どつち附かずの人が殆ど全部である。それではどうしても夜が明けつこはない。さうして物質文化はいかぬ、精神文化ぢや、いや東洋文化ぢやと言つた所が、「抑々佛教を活かすのか活かさぬのか」、「そこはまだ迷つて居るのぢや」といふやうなことでは、どうしてもうまく行く譯がない、その點を餘程落着いて考へて貰はなければならぬと思ふ。

我國の思想史を大觀致しますれば、極めて有數な人は三教融合の文化を打立てられたのであります。聖德太子を始めとして、菅原道眞、傳教大師、弘法大師、北畠親房、日蓮聖人、德川光圀といふやうな不世出の大偉人は、何れも三教の長所を併せてこれを行うたものである。さうしてその大方針は上は朝廷に於ても御採用になり、下國民の大多數はその教を奉じて來たものである。德川の晩年より明治維新の最初に於て少數の士族の書生がこの大方針を破壞してしまつたのである。その破壞した思想が今日に生煮で傳つて居るといふことを能く考慮しなければならぬ。それを考慮したならば、この弊害を除かざる限り、文部大臣が幾たび皮相的な訓示を與へても、實行の上に一向現れて來ないといふことが明かになるのである。地方長官がその訓示を聽いた以前と聽いた後と何も違ひはしないだらう。物質文化に偏傾してはいかぬ、精神文明でなければならぬと言つても、「その精神文明の內容はどんなものであるか……」「そこはまだ考へて居らぬ……東洋文化を發揮しなければならぬ。」「東洋文化と言へば大事なものは佛教であるが……」「そんな話もあるさうだ……」一向要領を得ない。左樣な事で教化を醇厚にし民心を和會するといふ詔勅に奉答することが出來るや否やといふことを國民は考へなければならぬ。

これは神道の流派から考へても能くわかるのであつて、神道の流派は十派ほどありますが、大體は二つに分れるのであります。一つは純神道と稱して、皇祖皇宗の爲さつた儘のもの、それは今の宗教的の

やうなものではない、國家を經營することが主であつて、普通の人が考へて居る神道とは全然違ふ。教育勅語の『斯ノ道ハ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所』と言はれたそれが純神道であつて、決して宗教を表にしたものではない。國家の經綸を表にしたるものである。その中心は天照太神の天壤無窮の神勅が中心であつて、宗旨や宗教を開くといふのではない。我が皇統が萬世一系に傳つて、日本の國家が旭日と共に榮え行くといふ、國家の隆運を中心にしたるものが純神道である。それは國の初めより傳はつて居るものである。その次に現れたのは傳教大師の一實神道であつて、これは佛教の思想を加へてその神道を擁護したものであります。そこに無論聖德太子の示されたる三教融合神道といふものが存して居つた。それは神道の思想も、佛教の思想も、儒教の思想も長所を併せて用ひるのである。その長所といふものは先づ各々の教に就て一つづつを擧げて見れば直ぐわかる。神道は國家經綸の思想が示されて居る、日本の建國の事實理想を根本にして、皇室の尊嚴、國民精神の源といふものは純神道より來て居るものであつて、忘るべからざるものである。儒教に於ては仁義忠孝の道德を基として、節義の觀念を明かにし、義を見てなさざるは勇無きなりとか、義は山嶽より重しとか言つて、節義といふものを生命にしたる道德を說いた。我國の歷史を飾るところのあらゆる美談は、その儒教の節義の觀念を基にして織り成されて居ることが多いのである。いま一つは佛教の大きな哲學の理智、及び宗教の信念、これ即ち佛教より與へられたものである。非常に深い意味の哲學と温かなる信仰とを以て國民を鍛へて來たものである。斯の如く純神道の國家的意識、儒教の節義の觀念、佛教の哲學の知識と宗教の信仰といふものが相倚り相援けて、日本民族の文明の淵源を成して居るものである。一人一家の學者輩が出て間に合せに言ふたやうなものではありませぬ。林羅山が出て來て佛教が嫌ひだと言つたが、それは羅山一個の私見である。彼等が幾ら佛教を嫌ひだと言つても、日本人の思想から佛教の哲學、佛教の宗教を取つて除けることが出來るものではない。そこで聖德太子の三教融合の神道があり、傳教大師の一實神道があり、弘法大師の兩部神道があり、さういふ風に坊さんの偉い人が出て佛教の思想から神道を援けて來たものである。

その後へ唯一神道と言つて、佛教や儒教を敵として起つたやうな神道の流派がある。それは度會延佳のやうな者が出て、社祇神道と言つて、日本の神樣は佛教は大嫌ひである。佛教の息の根を止めてしまはなければいかぬといふ神託があつたといふやうなことを大に吹聽したのである。それは非常に間違つた事である。日本の神樣が佛教を好きか嫌ひかといふことは、聖德太子の時に既にその問題があつて、物部守屋と聖德太子の間に大きな議論があつた。その結果日本の神樣は決して佛教が嫌ひではないと相場がきまつて、佛教を採用されたのである。さうして聖武天皇は奈良の大佛をも造られた。日本の神樣が決して佛教が嫌ひではないといふことは、聖德太子に依り聖武天皇に依つて確然ときまつて居つたものである。その後に伊勢の外宮の神官度會延佳といふ者が、日本の神樣は佛教は大嫌ひであるといふや

うなことを言ひ出したものである。そこへ又山崎闇齋といふ儒者が垂加神道といふことを唱へて、譯のわからぬ事をゴト〳〵言うたのである。そこへ復古神道と言つて加茂眞淵、平田篤胤、本居宣長といふやうな人が出て、非常に佛教や儒教の惡口を言つたものである。それから教會神道と言つて、黒住教、天理教、大本教といふやうなものが出て來た。又近頃學者の研究としては新研究といふものが起つて居る。

斯樣に澤山分れて居るやうに思ふけれども、大別すれば二つになる。卽ち佛教をも儒教をも東洋の文化を融合して神道といふものが立つて行くか、儒教を敵とし、佛教を敵として、神ながらの道といふものを包容力を失つた孤立貧弱なるものとするかといふこの問題を根本に置て解決しなければならぬ。今の教育者が、日本の神樣は大事ちやと言ふが、その神樣は佛教なり、儒教なり、東洋文化を融合する思召か、敵對する思召かと言ふた時分に、度會延佳の思想に贊同するか、聖德太子や傳教大師のやうな考に行くか、そこがボンヤリして居るから日本の思想といふものが解決が附かないのである。今頃になつて明治維新の當時に考へて居つたやうに、佛教を敵視するものが日本の神樣の思召ちやといふことであつたならば、我國の前途は益々思想界が混亂して、遂に救ふべからざるに至るであらうと思ふ。左樣な狹隘な思想を以て日本の前途を導くことが出來るものではない。何故出來ないかといふならば、神道は立派な教だけれども、これに哲學的の研究、宗教的の研究を加へた時にどうなるか、第一に人間の魂



の事を一つ考へて見るならば、神道は人間の魂を哲學的知識に於てどう解釋して居るか、消えてしまふものとも言はぬけれども、存在するといふこともハツキリしないのである。尙にそれはボンヤリした素朴なものである。宇宙に對する觀念も、神樣といふことは言ふけれども、この宇宙に神樣の存在するといふ意味合に就ての哲學を有しない。たゞ神樣があると言ふ。その神樣も人間であるやら、神樣であるやら能くわからない、神話的の神樣である。それ故に神樣がいろ〳〵喧嘩をなさつたり、或は神樣が子を產むといふやうなことも書てあるけれども、日本の古代史といふものは哲學的、宗教的に研鑽して行く上に、決してそれ一つで十分の說明が附くものではない。だからいろ〳〵の思想の疑ひが起つて來る。それはもう少し落着いて研究しなければならぬものである。たゞ日本人であるから日本の建國史は結構だ々々と言つて、何も研究しないで尊重して居ればそれ迄だけれども、能く調べて見れば、古事記でも日本書紀でも建國の事情を書たものは、それは長い間の言ひ傳へを記したものであるから、いろ〳〵ボンヤリした事がある。それが一つや二つ疑ひが起るのなら宜しいけれども、十が十まで疑問に屬するものが羅列してあると言つても宜しい。たゞその中心にある事實、前に申した國家の經綸といふことを考へれば尙に立派なものであるけれども、これを哲學とし、これを宗教として研究せんとする時には、素朴貧弱なるものと斷定して少しも差支ない。であるから神道などから完全なる宗教が起るべきものではない。神道の思想から完全な哲學が構成せらるべきものではないといふ位の事は、日本人の常識

ある人は諒解して置かなければならぬ事である。それは昔からさういふ事にきまつて居つた。だから聖德太子に於ても、日本の建國史を十分に明かにしようと思へば、佛教のやうな大きな思想を加へなければならぬと言うて居られるのであります。

孰れにしてもその思想が茲に殘つて來て居るから、今日所謂國體擁護派といふものに於ても二派あると思ふ。たゞ固陋なる神道の狹隘なる觀念からのみ日本の國體を擁護せんとする思想と、我が國體の美風は單に古代史の證明するばかりではない、佛教の思想から見ても、又儒教の觀念から見ても立派なものであるといふ思想と二つある。堂々として文化の批判の中に我が國體の優秀を證明する態度で行くか、他の思想の批判は一切斥けて、たゞ自分の家にあつたものが宜しいといふ固陋なる態度で行くかといふことである。兎角佛教を排斥する人の頭腦では國體擁護論でも無理がある。他の思想を壓迫してたゞ自分の家のものが宜しいといふことを獨斷的に言ふのであるから、將來の思想界に於ては頗る薄弱なものである。それは前に申す宇宙の全體を眺める上に於ての超人者の人格實在論といふものは、宇宙を眺めて頭が低がるやうな意味合を哲學的に宗教的に論證するものは、佛教を措いて他にあるべきものではない。儒教も天道明德とは言ふけれども、たゞ天道といふ言葉があるのみにして、天道とは何ぞやと言へば、これに哲學的宗教的の説明は出來ない。たゞ天道は灼なものであるといふ位の事である。さうしてその祀る所は何かと言へば、山川を祀るなどと言つて、泰山を祭るのが天子樣の仕事である、餘はもつと小さい山や川を祀るといふやうなことで儒教はやつて居るのである。それは所謂自然崇拜である。宗教學の上に於て、哲學の上に於て儒教の態度は決して將來の思想界に於て容認せらるべきものではない。その點になると佛教は實に偉大なものである。佛教の信仰對象は哲學的に宗教的に立派に論證されるもので、世界の文化をまるきり集めても、この佛教の思想ほど優秀なものを有つて居るものは他にないのである。東西古今の思想の全部を集めて、佛教は最も完全な宗教哲學を有するものである。その佛教が日本の文化の中に有るのである。

この三教の思想を加へて教化の源を築かなければならぬと思ふ。學校で今日教育して居るのでも、宗教を入れるとか入れぬとかいふやうな話よりも、我國の歴史的文化といふものを體系的に擁護しなければならぬといふ場合には、最初の聖德太子の時から、日本には佛教の文化といふものがある。單に佛教を宗教とか信仰といふだけにのみ考へるから、さういふものは別物だと思ふけれども、佛教の文化といふものは、東洋文化の精髓を示して居るものである。それは哲學もあれば、宗教もあれば、道德もあれば、あらゆる人文の上に大切なる教訓が滿載されて居るものが佛教である。單なる宗教ではない。宗教的方面だけでも非常に大事なものであるけれども、佛教の有する文化は、あらゆる東洋の有つて居る文化の殆ど全面に對して最も深き解釋を有するものである。政治上の事でも、經濟上の事でも、日常生活の事でも、あらゆる東洋人の有つところの文化といふものゝ全部が佛教の中に示されて居るのであり

ます。

であるから佛教を基礎にすれば最も整うたる教化が出來るのである。民心和會といふ目的の爲に考へても直ぐわかる。人の心を和くし、人々が力を協せて仲好くして行くやうにするには佛教の教化が一番宜しい、無論儒教にもさういふ意味があり、神道にもあるけれども、人の心を和げるといふことから考へたならば、佛教が一番人心を和げるものである。佛教は信仰を教へ、先づ掌を合はせることを教へる。この佛に對して掌を合はせるところの『質直にして意柔軟』といふ和いだ態度、日本人の大多數が何に依つてその心を和げられて居るか、多數の國民に就て考へて見たら直ぐわかる。論語を一卷讀まなくとも、古事記を一卷讀まなくとも、家庭に於て人々の心が和いで居るその態度といふものは、皆佛教の感化を通して來て居るのである。この大きな事實を何と見るのであるか、今や人々の心が荒んで居る、これは無論西洋の權利利益の思想が高まり過ぎた爲に爭ひが激しくなつて來て、或は階級の鬪爭といひ、利害關係の衝突の爲に、人心が荒らいで來たのであるが、これを和げる力といふものは何であるか、この我慾の精神、物慾の精神を緩和する作用は何が一番强いかと言へば、佛教の信仰を與へるに如くはない。佛教では我慾の觀念、我執の觀念といふものを除くが爲に、あらゆる教化が與へられて居る。佛教に依つて教化されて掌を合せるに至つたならば、もうその時に我慾、我執の觀念の幾分は和いで居る。「人はたゞ左樣な我慾の心ばかりではいけないものだナ」といふ和いだ精神に立つことが出來る



のである。これは最も大きな事實である。論語や大學の講演をしたり、古事記や日本書記を毎日讀んで聽かせても、なか〳〵國民の心が和會するといふ效果は容易に現れないけれども、佛教の教化を復活普及せしめた時に於ては、あらゆる人々の心に和いだるところの美風が勃然として起るに相違ないのである。たゞ口先ばかりでいゝ加減な事を言うて居つてはいかぬ。本當の目的達成に實效あるものを採つて用ひなければならぬ。何故に佛教を左程に毛嫌ひするか。佛教は我國の文化の中のものである。決して他人のものではない。佛教は坊主のものだなどと考へて居るのは愚の至りである。佛教は東洋文化の寶庫である、誰のものでもない。東洋人の有する最も大なる文化ではないか。これを活用すればその中に、あらゆる點から人間の心を和げ、時弊を匡救する力が現れて來るのである。

今上陛下はたゞ民心の和會と仰せられてあるけれども、この和會といふことを中心にして、今日横はつて居るところのあらゆる時弊を匡救せんとする大御心に相違ないと思はれる。そこには第一に利己心を本にして物質慾の旺盛な虛榮の生活、放縱の生活といふものが起つて居る。それは高潔な宗教を與へなかつたならば、誰でも肉慾の爲に惑溺するのである。たゞ普通の知識や普通の技術を學んだゞけであつたならば、人間は物質慾の爲に必ず惑溺の生活を過るものである。如何に大きな政治家であらうが、立派な學者であらうが、高潔なる宗教の信念に導かれざる限りに於ては、物慾の爲に禍ひされて、低級なる觀念に墮落するものである。それであるから堂々たる政治家が、僅かの金錢の爲に失脚したり、名

聲ある學者が敵國から金を貰つて惡思想を宣傳したりすることが生ずるのである。彼等は學者には違ひないけれども、物慾に對しては何等の反省力も、何等の抑制力も無いから、最も忌はしいところの國家を禍ひするやうな事を企てゝ、それに依つて自分の慾望を滿たさんとするのである。その點に於ては單なる墮落性の泥棒や、人を傷つける强盜よりも、敵國から金を貰つて危險思想を宣傳するやうな者は、もつと恐るべく、憎むべきものである。さういふ人間を指導しようとするには、逆も一通りの學問や理窟や政治ぐらゐで行くものではない。どうしても高潔なる宗教信念を心の底に打込んで、それから物慾の觀念といふものを粉碎して、「あゝ成程有難い」といふ宗教の信念を打込まなければならぬ。それにはどうしてもお釋迦樣を伴れて來なければならぬのである。孔子樣や西洋の哲學者や、そんなものを伴れて來ても駄目である。釋迦如來は一國の王子であつて、國中第一の美人を妃とし、榮耀榮華の生活をすべき身分の者が、一切を擲つて樹下石上の生活をし、人生の物慾の總てを放擲して、精神の領土を啓き、精神生活の妙味を極度に示されたものである。この如來正覺の導きに於てのみ、人間の鞏固なる物慾を抑制することが出來るのである。斯ういふ偉大なる教がある、このお釋迦樣の教を受けて落着いて考へろと言ひさへしたならば、「成程」といふことがわかるではないか。百の理窟や言ふよりも、釋迦如來の前に合掌禮拜せしむれば、利己心とか物慾に惑溺する弊害を匡救する力が出て來るのである。

であるから本當は今日國民の上に立つ人々が先になつて釋尊の前に禮拜合掌すれば宜いのである。先頃英國のグロスター殿下が來られた時、日曜日に教會へ行かれて、自分も信者の一人として、今日は神の前に跪くと言はれたといふことである。その新聞記事を見て流石は立派な宗教的の國であると自分は思つたが、その態度がなければいかぬ、この偉大なる宇宙の神明に對して敬虔の心を有たないでごまかして精神生活が啓かれるといふやうなことのあるべきものではない。崇高なる宗教の信念の前には、如何なる知識ある者も、如何なる名譽ある者も、從順に一心合掌すべきである。聖武天皇が奈良の大佛をお造りになつたやうなあの態度があつて、始めて國民が精神生活の妙味を會得するのである。その教化を棄てゝ顧みないから、現代の民心が斯の如くに頽廢墮落して來るのであると謂はなければならぬ。

その佛教の崇高なる信念と、哲學的の知識、魂に關し、宇宙に關して說明せられるところの遠大なる知識と、この純潔なる信念とを佛教から與へられて、それに併せて儒教の仁義節義の觀念を握り、さうして神ながらの忠君愛國、國家經綸の觀念を握つて立つならば、日本人は立派な東洋文化の中に棲息することが出來るのである。その事を文部大臣は地方長官に訓示された積りであらうと思ふけれども、もう少しその點をハッキリ說明して貰はないと、言ひ居る方も聽き居る方も、どうもわかつて居ないやうな氣がするのである。日本の教化を行ふには他には無い。無論神ながらの道も大切であり、儒教も大切であるが、殊に今日の禍ひを除くには、佛教の本當の教を復活し、佛教の哲學と、佛教の宗教とをもつと〳〵國民一般に能くわかるやうに、政治家も教育者も一般國民も、佛教の有難い事を思うて頭を低げ

るやうにならなければ、現代の病弊は救はれないと信ずるのである。

要するに教化を醇厚にし民心の和會を致すと仰せられた聖勅に奉答するが爲には我國教化の方針を確立し、殊に佛教の眞價を善用發揮する事に於て、始めてこの聖旨に副ひ奉る事が出來ると考へるのであります。幸に同感の諸君は協力一致して、この我國の現代及び將來に取つて最も大切なる教化の方針確立の運動に對して援助せられんことを希望する次第であります。（了）

喪中に付歳末年始缺禮仕候

本多禮三

追面　當方一同ハ本月中旬妙國寺ノ南通リ（品川町南品川四一三鈴木方へ）轉居仕候間不相變御高誼御願申上候



# 自界叛逆難他國侵逼難（承前）

陸軍中將　四王天延孝

そんな風に獨逸がベルサイユ條約を破棄するといふことは、今日獨逸の有識者が皆考へて居ることでありますから、是は何等かの機會に於て勃發するにきまつて居ります。さうして佛蘭西と伊太利の關係は依然として惡化し、又佛蘭西と獨逸の關係も傳統的に相容れないのでありますから、如何に國際聯盟が兩者を調停しようとした所で其の國民的感情、又色々な利害關係といふものは、生やさしい藥をかけた位のことでは到底解けるものではない。將來必ず獨伊の聯合に依つて、佛蘭西とそれから獨逸を取卷く所のチェッコスロバキヤ、波蘭といふやうな國の聯合が出て來て、丁度歐洲大戰前の對立狀態のやうなことになつて、第二の世界大戰が彼の邊で勃發するであらうといふことは、殆ど今日疑ふ餘地はないのであります。

歐羅巴のことはどうでも宜いとしても、我國に關する限りはどうでありませうか、是は日支の衝突を以つて起り、遂に日米の問題になるといふことを私は一昨年頃から公然と唱へつゝあるのであります。是は日本が欲すると欲せざるとを問はず、必ずさうなつて來るのである。さうして是は決して日本が好戰的であるとか何とか言ふのではなくして、餘儀なくされるのであるぞといふことを一昨年から私は唱へて來たのでありますが、不幸にして私の豫言が色々なことでビシ〳〵當つて來るのであります。私は前から申すやうに國難といふことを叫んで參りまし

たが、それがどうも當つて困る。今回も滿蒙問題なるものを惹起しまして、御承知の通り昨日から更に錦州政府を攻擊するといふ風にまで發展するやうになりました。是が今後どうなりますか、實際のことは私もまだ忙しいので當局から聽いて居りませぬが、此の滿蒙問題といふものは、是が唯支那と衝突する位のことであるならば、日本の忠勇なる軍人に御信賴あつて差支へないと思ひますけれども、實はモット國民全體がしつかり腰をきめて掛らないと困る問題でありますから、それで私は特に其のことを申上げようと思ふのであります。六百五十年前に立正大師が仰せられた國難といふものは、其の當時の打擊としては實に恐しいものでありました。歐羅巴まで捲蓆したやうな彼の大國が日本を一蹴しようと思つて元寇十萬を送つたのでありますが、私の今考へて居る所に依りますと、我國が今直面して居る他國侵逼の難といふものは、唯十萬の兵隊を以て何處からか日本を攻めに來るといふやうな生やさしいものではなくして、或は是が經濟封鎖となり、或は各種の方面に於ける壓迫となつて、隨分苦しい立場に置かれることを考へなければならぬのであります。併ながら是は切拔けられぬことはない、之を切拔けるには實に正義の利劍を以つてしなければならぬと思ふ。それには國民の一致の力と熱とを以つてしなければならぬと思ふのであります。國民が問題を正視せず、唯外國の關係を恐れましたり、亞米利加に脅えたりするやうなことでは、到底此の難局を切拔けることは出來ません。皆さんは既に九月の十八日から今日までの間に滿蒙問題の記事もお讀になり、又講演等もお聽になつたりしたことであらうと思ひますけれども、私は一通り國際關係に影響すべきやうな點を此の際申上げて置き度いと思ひます。

滿蒙問題と一口に申しますが、私は之を二つに分けて考へます。日に月に進展して來る各種の問題と、それからさうでない根本の問題とであります。色々の問題が勃發致しまして、今日まで未解決になつて居りますものが三百件もあるのでありますが、併ながら三百件もある個々の問題といふものは、恰も彼方此方に腫物が出來たやうなものである。此方の方に腫物が一つ出來た、又此方の方にも出來たといふやうな譯で、其の個々の問題は之に膏藥を張つたり、膿を潰したりした所で、根本問題を解決しなければ又必ず起つて來る。決して根絶するものではない。それを藪醫者は、唯出來た所に藥を塗つたりして其の方だけを糊塗しようとして居る、是が非常に宜しくない。『事件を擴大するな〳〵』と言つて、どうも陸軍あたりが手荒な事をして困る、事件を擴大するなと言つて、何にも事情を知らない外國人が言ふ尻馬に乘つたり、又我が國人にして唯問題を小さくして片付けようとして居る人がありますが、併し事件の擴大といふことは、之を空間的に觀るか、時間的に觀るかといふことを考へて見なければならない。成程滿鐵沿線に止つて居つたものが錦州といふ處まで飛行機が飛んで行つて攻擊したといふことになると、空間的に非常に擴大したことになります。けれども、蛇の生殺しをして置いてそれが又直に繰返されるといふことになると、時間的には問題は寧ろ將來に擴大するのであるから、時間的に事件を擴大せしめない爲には、一擧にして根本問題を解決しなければいけないのであります。それに着眼をしないで、唯目先のことを考へて成べく事件を小さく、成べく早く元の狀態に復せといふやうな下らないことを考へて居る人達は、實に大日本帝國の臣民ではなくして、それは小日本の小人であると言はなければなりませぬ。

それで根本問題を申上げるのでありますが、其の前に個々の問題を先づ大體御話して、滿蒙の實情といふことを御諒解を願ひたいと思ひます。九月十八

日の午後十時二十分頃、奉天北方柳條溝の滿鐵破壞事件といふことは皆さん御承知の通りであります が、唯私は斯ういふことを申上げて置きたい。日本人の中にも『どうも少し話がおかしい。其の晩演習をやつて、さうしてポンとやつて忽ち撃退した。餘りうまく行き過ぎた。陸軍あたりで拵へた芝居ではないか、餘りトン〳〵拍子にうまく行き過ぎた』といふやうなことを考へて居る人があるのでありますが、是は飛んでもないことであります。私は丁度今から二十四年前に、滿鐵沿線の全部の守備警戒といふことを擔任した關東軍の一參謀大尉でありました。南滿洲鐵道といふ細長い線香のやうなものを日本が有つて居つて、之に駐兵權と稱して一キロメートルに付て十五名の兵隊を配置する權利がある。さうして此の線を守備する義務がある。歐羅巴と亞細亞の二大大陸を連絡する國際的の公道でありますから、之を守備する義務が日本にある。それが爲め十五名の兵士を配置する權利があるのでありますが、併し其の十五人といふものを唯電信柱のやうに〳〵に並べて置いたら、到る處弱くて忽ち吹飛ばされてしまふから、それは何處かに固めて大隊を拵へる。それから分遣中隊を拵へ、更に分遣小隊といふものを拵へて警備して居る。それにした所で兵隊の一人も居ない所が何里の間もあるのでありますから、其邊を若し破壞された時にはどうするか、此の線香のやうな細長い鐵道線路をポッ〳〵と切られてしまつたら連絡がつかなくなつてしまふ。さうして此の沿線に多數の日本人が住つて居るが、それ等の人は全く孤立無援の狀態になる。それを如何に守護するかといふことに付ては、唯宜い加減に隊長の肚に任して置く譯には行かない。それで守備計劃といふものがチャント立てさせてある。應急準備の計劃といふものも立てさせてある。それを毎年軍司令官が行つて檢閲し、或は守備隊司令官が行つて檢閲をし、大隊長が檢閲をするといふ風に、絶えず檢閲をして、是ではどうも危いぞといふやうな事があれば直ちにそれを直させるやうにして、それをチャンと書き物にまでして、さうして其の守備計劃に基いて不時呼集、演習なども絶えずやつたりして今日まで來て居るのであります。私がやつた當時でさへも、自分とすれば是で大丈夫と思ふ程度までやつたのでありますが、それ以來二十四年間、一年の間に數回づゝさういふ檢閲をし、實習をしつゝ來つたのでありますから、今日に於ては實に完璧を期して居る。掃曉に何か問題が起つた場合にはどうするか、晝日中起つた場合にはどうするか、夕方起つた場合にはどうするか、深夜に起つた場合にはどうするかといふ程度にまで、實に詳細に眞面目に研究を重ねて居るのでありまして、是は他の生じつかの業務とは違ひまして、責任を以つてやつて居る仕事であります、命がけであります。さういふ風に吾々が二十數年前に滿鐵が日本の手に入つた時からやつて居る仕事を、其の苦勞も知らないで濫りに批評をする。夜間演習などは始終やつて、どんな事が起らうとも聊かの蹉跌もなく警備を全ふし得るやうになつて居る。其の實情を知らずして、『どうもおかしい、餘りうまく行き過ぎた』などといふ批評をするのは、實に我が忠勇なる、身命を賭して働いて居る將士に對して相濟まぬことだと思ひますが、我國の官憲の中にさへもさういふ考を有つて居る人があつたといふことは、實に遺憾千萬のことであります。

又是が支那側の計劃から出たものであるといふことは色々な證據もありますが、私は一つ正確な材料に依つて申しますれば、本年の二月支那の外交部長王正廷（此の間學生に袋叩にされたといふ男）が、國民黨々部に於て演說をした時に、斯ういふことを言つて居ります。

『日本が支那の國權回復に應じない時は一戰を以

つて日本を屈服せしめる』

と豪語して居る。又本年の夏奉天要路の人達が

『近時青年の士官には、日本と一戰を交へて日本を滿洲より驅逐すべしと說く者が多くて、之を抑へるのに苦しんで居る』

といふ話をして居る者もあります。又

『近時日本の軍人は實戰の經驗に乏しくなつて來た。所が支那軍は國內戰を每年やつて居るから實戰の修練を經た者が非常に多い。隨つて青年將校の意氣込は頗る荒いぞ、』

といふことを日本人に向つて豪語したこともあります。言外に日本を侮蔑して居るのであります。七月の七日には既に長春南方と陶家屯といふ所に於て、我が巡察兵が支那の巡警五十名に包圍されて巡警局に引張つて行かれたことがあります。八月五日には南の方に海城の附近の警戒勤務中の獨立守備隊第三大隊が、支那人の爲に拳銃射擊を受けて負傷をした事件があります。それから九月九日、即ち事件より僅か九日前に虎石台の附近で滿鐵車輛が支那人の爲に襲擊された。九月十四日には四平街の北方に於て獨立守備隊第一大隊の巡察兵五名が、約二十名の支那匪賊の襲擊を受けて戰死者一名を出した。是は匪賊といふけれども、支那人の言葉には「兵匪」といふ言葉があつて、時に依つて正規兵になつたり匪賊になつたり色々になる。正規兵かと思つて居ると、少し俸給不拂ひでも續けば忽ち馬賊になつてしまふ。それが少し兵隊が足りなくなると『どうだ官兵が要るが來ないか』といふので、又馬賊の中から募集に應じて正規兵になつて來る者がある。さういふ實情でありますから、九月十四日の事件も匪賊の襲擊を受けたとありますけれども、實際はどうだか分らないのであります。

さういふ狀態で、もう實に勃發するばかりになつて居つたのであります。ハルビンにある日本の總領事館の警察署が事件發生の數日前に支那側から得たる情報にも、『近日南滿洲に於て日支兩軍の衝突がある筈だ』といふことがあります。又九月十四日頃から奉天に居る支那の大官連中が奉天銀行から大金を引出して、上海、天津方面の銀行へ預け替へました。其の主なるものは、湯玉麟といふ男が五十萬元、吳春來といふ男が百六十萬元を預け替へて居ります。是は十三日の日に張學良から東北の大官に向つて重要な秘密電報があつた結果だと稱せられて居ります。さうして支那軍の爆破した地點は、奉天の北に在る北大營といふ支那の兵營の西南の角から約八百米しかない軌條の接續點を破壞して、歐亞大陸交通線を爆破したのでありますが、彼等が計劃的にやつたといふことは實に疑ふ餘地もなく明かであるのであります。

玆に於て私共がもう一つ非常に不思議に思ふことは、千九百二十三年に希臘と伊太利とが衝突したことがあります。さうして伊太利のムツソリニーがコルフといふ島を占領した。彼の事件が矢張り中村大尉事件のやうに、伊太利の將官と佐官一名、士官一名、運轉手、通譯、斯ういふ連中が自動車に乘つて國境測定問題で希臘の國內を通つて居る時に、誰に殺されたか分りませぬが、殺されてしまつた。三臺の自動車が通つた中で、一番先の自動車と二番目の自動車の間に木材を兩方から放り込んで自動車を動けないやうにして、さうして左右の森林の中から出て來て殺してしまつた。第三番目の自動車には希臘の將校が乘つて居つたのでありますが、それは途中で自動車に故障が起つたといふので長らく現場に來なかつた。是は自動車の故障であるから、起さうと思へば譯はない。其の芝居の行はれて居る間は出て來なかつたでありませう。そんなことから伊太利はてつきり希臘のやつたことだと見當をつけて、十箇條ばかりの苛酷なる條件を附して談判を始めた

ら、其の時に希臘は直ちに聯盟に訴へました。其の小國、弱國の連中が聯盟に訴へた時期が何時であるか、矢張り九月でありました。今度も九月であります。而も此の前にも國際聯盟總會の開會中であつた。今度も亦其の通りである。そこで私は是は皆同じやうな芝居を打つて聯盟に訴へて、聯盟に騒いで貰つて、さうして聯盟の權威を付ける、斯ういふ一つの芝居であると觀て居ります。此の間日本までやつて來た國際聯盟經濟部長のソールター、保健部長のライヒマン、もう一人聯盟の役員が支那を巡つて今南京邊りにうろついて居る。其の時に斯ういふ事件が起つて早速聯盟に訴へろといふ話になつて來るのでありますから、是は實に計劃的のものであるといふことは私は疑ひません。

事件の經過等は詳しく申すことを省略しまして、次に段々遡つて中村大尉事件に及びたいと思ひます。中村大尉の事件に特に私が非常に同情を禁ずる能はざるものゝある所以は、中村君は參謀大尉で殺されました。私も丁度大尉參謀の時に偵察に派遣されたことがありました。中村大尉と同じ方面ではありませんが、私は奉天から東の方を歩いたのでありますが、まだ吉長鐵道などのない時のことでありまして、當時を追懐致しますと、今にして見れば隨分いろ〳〵の事がありました。今の兵匪かどちらだか分らないやうな奴が、吾々の飯を喰つて居る所にドヤ〳〵入つて來たり、いろ〳〵な目に會ひました。能くまあ今日斯うして生き永らへて居るものだと思ひます。當時のことを考へまして、萬感胸に迫る次第でありますが、それだけ中村大尉の事件には非常に同情するのであります。當時私が長春から吉林の方面を歩いて見ますと、實に驚くべきことは、支那人は新聞もなければ雑誌もない。無智文盲の輩が多いのでありますから、日露戦争は何方が勝つたのか知りませぬ。私の連れて行つた通譯は、支那語に於



ては殆ど日本人か支那人か分らぬやうな達者な男でありましたが、是が柔道二段位で力が強い。或る時に支那人と喧嘩をしまして、彼も中々強いけれども支那人も馬賊上りの非常に力のある奴で、投げの手を掛けても効かない。段々あべこべに押へ付けられさうになつたことがありました。私も默つて居られないので「コラッ」と言つてギラリと引抜きますと、其の儘二三人の奴が手を放して逃げてしまひましたが、さういふ風な亂暴は南滿洲鐵道附近では決して致しません。何故かといふと日露戦争といふものを見た者が多い、日本人は怖いぞといふことを知つて居りますから、決して亂暴をしません。所が吉林などの方になると日露戦争の實際を知らないので、私が話をした或る支那人は、「日露戦争といふものがあつたさうだがあれは露西亞が勝つたさうですね」と言ふ。「冗談を言ふな、誰がそんなことを言つたか」と言ふと、「此の邊を通つた露西亞人がさう言つた、散々に日本を叩き付けて今凱旋をする所だと言つたが、嘘ですか。」「冗談を言つてはいかん、日本が全く露西亞を叩き付けたのだ」と言つても、「へー、さうですかね」と言つて中々信じないやうな模樣でありました。又長春から少し入つて行きますと、往來の木の下に絹の着物を着た人間が叩き殺された儘で柳の木の下に轉つて居る。二日位經つたかと思はれましたが、官憲から調べに來るのでもなければ、人命のお粗末なことには驚き入りました。よくそれでもまだ絹の着物だけでも殘つて居つたもので、大抵其の邊の奴が持つて行つてしまひます。金は無論持つて行つたでせうが、着物だけが殘つて居つたのが寧ろ不思議に思ひました。さうかと思ふと長春から吉林の省城に向つて銀を輸送する、其の銀を積んだ馬車を護衛して行くのにどれだけの護衛兵が居るかといふと、僅に騎兵が二名しか附いて居ない。是には私も驚いた。此の邊は馬賊の盛んに跋扈して居る

所で、吉林附近には一千名位の部下を持つた馬賊の親方がありまして、大砲まで有つて居ると言ふ。さういふ所を僅に二名かそこらの者が護衛して行つて、何時馬賊に襲撃されるか分らない。どういふ組織になつて居るのかと思つて段々研究して見た所が、馬車の上に旗が立つて居る。其の旗が、其の地方の馬賊の頭目にチャンとわたりが付いて、附届けが行つて居る、馬賊納税濟の旗である。官兵が馬賊に對して納税濟の旗を立てて行けば安全であるが、附届けをしないで行くと皆取られてしまふ。實に支那といふ國は何たる情けない國であるかと思ひました。主權者があつて、其の以外に官兵が馬賊に附届けをしなければ歩けないといふ有樣であります。所が是は段々研究して見ると、南の方にも同じやうなことがあります。營口の傍を流れて居る遼河といふ河を上り下りする船が、やはり皆海賊に附届けをして、檣高く納税濟の旗を立てゝ歩けば安全であるが、其の旗が立つて居ないと海賊にやられてしまふ。さういふ風な實に厄介な國であるといふことを、其の當時私は熟々感じたのであります。實に氣の毒なのは支那の人々であります。

中村大尉は興安嶺の方の伊魯勒的河といふ所から南の方へやつて來て蘇鄂公府といふ所で殺されたのでありますが、此の附近は由來非常に物騒な所でありまして、前にお話した私の元使つた通譯が、其の後私と別に興安嶺の方へ偵察に行つた時に、やはり通倫の附近に於て殺されて居ります。或る日蓮主義者の話でありましたが、日持上人が遭難せられたのは、やはり彼の附近ではなからうかといふことを言つて居つた人がありますが、私は能く研究して居りませぬから何とも言へませぬが、由來あの邊は惡い所のやうであります。併し斯樣に陸軍の方では身命を賭して色々實地の調査をして居るのでありまして、實に眞面目に絕えず研究をして居る。唯紙の



上や書物に書いた物を讀んで、それで支那の事情を遠くから察して居るのではない。實際に色々の艱難辛苦〻嘗めて、實地の踏査をして居るのであるといふことを、どうか國民は買つて戴きたいと思ふのであります。

中村大尉の事件はそれ位にしまして、萬寶山の事件を申しますと、萬寶山事件といふのは偶々長春附近で問題が起つたものだから人の耳目を聳動したのでありますけれども、あの位の事件は幾らもある。吉林、敦化の方面に居つて、長らく定住して居つた朝鮮人が、近時排日の氣勢が甚しくなつて、次第に放逐されて、流れ〳〵て長春の附近まで來て、今年の春になつて早く灌漑工事をして水田でも作らなければ今年生きて行ける途がないといふので、四百名ばかりの者が萬寶山で土地を商租(賃借)して、灌漑工事を行つて水田を作らうとした所が、官兵の壓迫が酷くなつて來て遂に其の灌漑工事をぶち壞すといふことになつた。こちらはぶち壞させないやうにといふので對抗した爲に、醋い目に會ひさうになつて、特別援護の警察官が機關銃を持つて行つて之を保護したのであります。長春は我が軍隊の所在地でありますから、支那が遂に屈服して餘り酷いことにならずに終りましたが、是れ位の事件は百數十件も鮮農問題に關してはあるのであります。唯何れも奥地の方に入り込んで居る爲に、何等世人の注目を拂はれて居りませぬ。朝鮮人は元から段々此の邊の土地に入つて水田を拵へて居る。初の間は六分四分の約束でやつて居るので、無論收穫の六分は朝鮮人が取り、支那人が四分といふやうなことで初めは耕作を始めるのでありますが、既に朝鮮人も其處へ落着いて小屋でも建てゝ定住する氣色が見えて來ると、今度は六分四分を反對にしろと言ひ出す。「俺が六分取るからお前は四分で我慢しろ」と言ふ、それでも仕方がない我慢をして居ると、遂には「俺は八

分取るからお前は二分で我慢しろ」といふことになるのであります。日本でも各地で小作問題とか何とか言つて騒いで居りますけれども、新附の同胞たる鮮人の受けて居るやうな苛酷な待遇を受けて居るものは、恐らく如何なる小作騒動を起して居る所と雖も内地にはないだらうと思ひます。斯る狀態であるけれども、もう喰つてさへ行ければ宜しいといふので八分二分の割合でも我慢をして居りました。所が最近になつては段々支那側が付け上りまして、支那人は朝鮮人を全部不逞鮮人といふ名前を付けて呼んで居る。さうして「お前達は何時何處へ行つてしまふか分らぬから先に年貢を納めろ」と言ふ。「年貢を先に納める位の餘裕があるならば、こんな所に來てあなた方のお世話にはなりませぬ」「それでは穀類でなくても宜しいから金で納めろ」「冗談を言つては困る、金などは尙ほ更ありませぬ、そんな金があればこんな所まで來はしない。」「それなら家財道具でも何でも宜い」「家財道具といつても御覽の通りで、鍋、釜、位のものでどうして一箇年の年貢だけあるものか」と言ふと、「それではまだ外にお前の所に無くても宜いものがあるからそれを出せ」「いや、無くても宜いものはありませぬ」「お前の女房、娘はお前は無くたつて生きて行ける筈だ。女房と娘を出せ」と言ふ、實に亂暴な談でありますが、少し證皮の剝けた女房や娘は皆どん〳〵連れて行つて妾にしてしまふ。それに抵抗する場合にはぶち殺された り、官憲に密告して彼は不逞鮮人だと言つて縛られることになるから、己むを得ずしてさういふ無體な要求にも應ぜざるを得ないといふ譯で、涙を呑んで段々東の方から流れて來た鮮農が、偶々長春に行つて萬寶山事件といふものになつたのださうであります。

そこで商租權といふことを申さなければならぬのでありますが、此の日本人の土地の商租といふことに付きましては、大正四年五月の所謂二十一箇條の條約、彼の大隈さんの時にチャンと條約は出來て居るのであります。決して彼の條約は無効になつたものではありませぬ。其の條約の第二條に、『大日本帝國の臣民は南滿洲に於て商工業を營む爲に家屋を建造し、及び農業を營む爲に土地を商租することを得』といふことがあります。商租といふ言葉は其の時初めて出來た文字であります、一期を三十年(若くは二十年でも宜いが)兎に角約束をして、それを更に無條件で更新し得るといふやうになつて居る。其の條約を拵へるといふと、一箇程月經つて支那は直ちに懲罰國賊條令といふ國内法を設けて『外國人に土地を賣り、又は之を賃借する者は之を國賊と見做す。重き者は銃殺す』といふことにして、國内法を以つて此の條約を無効にしてしまつた。是は實に驚くべき惡法でありまして、未だ嘗つて文明國の間に、國際條約を國内法を以つて蹴飛ばしてしまつた例はない筈であります。支那のやうな豪傑にして初めてやり得ることである。

朝鮮人が今吉林方面から追出されて來て虐められて居るのは、商租權問題から起つて居るのでありますが、斯かる狀態を吾々が放任して置くといふ場合には、是が朝鮮統治にまで影響を及ぼして來るのであります。東京の市中に於て中村大尉の事件の前から、慷慨悲憤なる朝鮮人が幾らも演說をして居ります。私もそれを聽きましたが、彼等は何と言つて居るか、明治天皇樣が明治四十三年に日韓合併をなさつて一視同仁の化を伸べんと仰せられた。吾々は其の明治天皇樣の恩惠に靡いて今日まで來て居るのである。鮮農百萬(二百萬と言つて居るが、先づ百萬と見たら間違ひない。)百萬の鮮人が滿洲の土地に於て商租權といふ立派な條約の擁護を受けて働いて居る積りである。所が到る處斯の如き壓迫を受ける、其の度毎に吾々は日本の官憲にお縋りして之を

訴へ、どうか解決して貰ひたいと言ふけれども、何年經つても其の解決は出來ない。唯外交官が一片の抗議を支那官憲になさつたのでは一向に埒があかない。さうして甚だしきは滿洲に居る日本の役人の偉い人が、どうもこんな問題が起るのは一體朝鮮人が日本の國籍を取つて居るからだ、いつそのこと朝鮮人が皆支那に歸化してしまへば問題はなくなつてしまふ。歸化させようではないかといふやうな話をしたことを朝鮮人は聞いたが、是はいたく吾々の憤激を買つたぞ。一體自分の家の子供が他所へ奉公に行つて居つて、それが虐待を受ける。向ふの人が言ふには、お前は籍が向ふの子供になつて居るからどうも可愛がる譯にいかぬ。俺の子になれば可愛がつてやるのだと言つた時に、其の子の親が、それでは面倒くさいから其方へやつてしまをうか……、そんな親心がありますか。日本政府の諸公が斯る考を有つて居るならば、二千萬の朝鮮同胞は大に考へなければならぬ、日本の國籍を取つて居るが爲に斯る壓迫を受けるといふことになり、而も積極的に大日本帝國の國威を以つて、何等支那に對して條約の履行も迫ることが出來ないといふやうな弱いものであるならば、吾々は考へざるを得ませぬぞといふことを述べて居るのであります。是は他山の石として大いに研究しなければならぬ。即ち滿蒙問題の根本たる斯る條約不履行といふやうなことを其の儘にして置くといふことは、折角日韓合併をして東洋永遠の平和に寄與しようといふ朝鮮統治にまで、大なる影響を及ぼす問題であつて、此の滿蒙問題の解決といふものは、唯日本の別莊か何かゝ滿洲にあつたものを、面倒になつたから別莊を賣り拂つてしまはうとか、そんな簡單な話ではありませぬ。此の大問題を能く考へて、是は大國難の一つであるといふことをハッキリ國民は意識して貰ひたいのであります。

次には滿鐵竝行線の問題でありますが、南滿洲鐵道を日本が明治三十八年に露西亞から繼承して支那をして承認せしめ、三十八年の十二月二十二日に日清滿洲善後協約といふものが、小村さんと李鴻章との間に協定が出來た。其の條約に於て、滿鐵に對しては竝行線を造らぬといふことがきめてあるのであります。即ち『清國政府は該線路の附近に於て竝行なる線路を築造せず、又該路に有害なる枝線路を作らず』といふ約束がある。枝線路を作つても宜いが、それに依つて物資が滿鐵の方に流れ込むやうな枝線路なら宜いけれども、物資が反對に他の方面に流出すやうな有害な枝線路を作られては困るといふので、さういふ點までチャンと約束がしてある。然るに支那は滿鐵に竝行して東の方に吉海鐵道といふものを拵へ、又滿鐵の西の方に於ては打通線といふものを作つてしまつた。是が昭和二年十月に開通して居ります。のみならず吉海線が滄海線といふものになつて奉天を通過して、今まであつた京奉線の方に之を連絡してしまひましたから、滿鐵といふものは立行かなくなつてしまつた。要するに滿鐵を潤らしてしまはうといふ算段で色々の線を支那が拵へて居る。のみならず、最近に於ては東北交通委員會といふものが非常に尨大なる計劃を立てまして、第一幹線としては北の方の黑河から齊々哈爾、洮南から開魯、錦州を經て葫蘆島といふ港に至る線、其の葫蘆島といふ錦州の南に大築港を計劃して、和蘭の技師を傭つてやつて居る。日本が隨分多くの金を注ぎ込んで東洋の呑吐港にして居る旅順、大連を無効にしてしまはうといふので、大連の向ふを張つて葫蘆島に築港を拵へた。それから第二幹線は滿鐵の東を南北に貫通し、第三の幹線は之を北平の方に繋がうといふ尨大なる鐵道計劃を立てゝ居る。斯樣にして滿鐵は全く袋の中の鼠にしてしまはうといふのであります。

日本の人の中に、而も滿鐵に關係して居つた人の

中に、唯算盤を彈く事より外知らない人達は「斯うなつて來て算盤が合はなければ、支那が賣つて呉れといふなら賣つてしまはう、亞米利加が賣つて呉れといふなら亞米利加に滿鐵を賣つてしまはうか」といふことを考へたり、口外したりする人がありますけれども、飛んでもないことであります。是は抑々の歴史から考へて見るならば、唯僅かな金を出して日本が買つたものではない。滿鐵は實に我が滿蒙政策の動脈であり、脊髓骨であります。國防の第一線を形成し、又需要供給の經濟關係に於ても此の邊の所が我國の版圖になつて居りませぬと、朝鮮の獨立の上から考へても、色々のことから申しましても、日本の存立といふことが脅かされてしまふ。經濟上の問題では、早い話があなた方の殆ど毎日のやうに召上る豆腐、味噌、醤油の原料といふものは、滿洲の方から皆入つて來るのであります。日本の米を作る爲に田に施して居る肥料の豆粕あたりでも皆滿洲から來て居るのであります。實に日本の國民生活に必要なる物資が多數に滿洲から內地に供給されて居る。支那人は其の日本の生活必需品を杜絶せしめて日本を困らせてやれといふことを、小學校の教科書に於ても彼等は書いて小さな子供に教へて居るのでありまして、『死しても日貨は買はず、死しても日本に食糧を賣つてやらぬことを誓ふ』といふやうなことを、小學校の生徒に答へさせるやうに教科書を編纂して居る。即ち日本の生活必需品を杜絶せしめようといふのは、滿洲から滿鐵を取返して、商租權や色々の條約上の權利に基いて日本人が滿洲の內に住つて行くことを根本から覆してしまはうといふ彼等の計劃なのであります。

斯樣にして商租權を認めず、居心持が惡いやうに、安住が出來ないやうに仕向けて居るものでありますから、今まで滿洲には相當多數の日本人が住つて居つたのでありますが、段々と是が減つて來て居る。哈爾賓の西の安達といふ所には日本人が二百名居つたが、今では零になりました。長春の西の農安といふ所には七百五十名の邦人——鮮人でない內地人が住んで居つたのが、今では僅に五名になりました。それから法庫門といふ所に百二十名居つたのが零になつてしまひました。斯の如くに滿洲內部には日本人が住めないやうに驅逐されつゝある。此の狹い內地に段々と戻つて來なければならぬやうに彼等は仕向けつゝあるのであります。

滿鐵並行線の問題に付ては抗議を二遍も三遍もやつたのでありますけれども、そんなことは知らぬ顏をして彼等はやつてしまつた。支那が斯樣なことを日本に對して平氣でやらうといふ背後には何人が居るか、誰が尻拵をして居るか、誰がそんな金を出して居るか、それは即ち亞米利加人であります。亞米利加は今や國內の鐵道網が發達し切つてしまつて、もう是以上に能率が出せないといふことから、今度は今の線路を改良しようといふことになつた。百二十封度のレールを二百五十封度のレールに變へ、今の二百噸、二百五十噸の機關車をモット大規模の五百噸の機關車にして、大きな車を澤山引張つて遠力を增して能率を上げようといふやうに段々計劃が進んで、今さういふことの實行に掛つて居る。さうすると今までの亞米利加の百二十封度のレールといふものは、日本に持つて來れば相當のレールでありますが、どん〳〵取外して行かなければならぬ。それを一つ支那に貸してやらう。金は拂へる時に拂へば宜いといふので、それを盛んに支那に輸出し、支那の方ではそれを當にして鐵道を架けることに段々と話が進んで、斯樣な滿鐵並行線といふものが出來ることになつた。實に日本としては迷惑千萬な話であります。

凡そ國と國との間に國際條約があるものを、其の條約を蹂躙られて默つて居るといふ法はない。是は

日本の決心に依つては、斯樣な條約違反の鐵道は不都合である、こんなものは運轉させないぞと言つて運轉を止めてしまつても宜い筈であります。現に奉天に於ける クロッスの問題があります。此の線は海龍から瀋陽に達する瀋海鐵道だと言つて居つたのが、何時の間にか滿鐵を横切つて京奉線の方に連絡して、北京から吉林まで繋つてしまふことになつた。日本人にも中々強いのがあつて、奉天に柳原といふ男が土地を商租して立派に農場を作つて居つた。所が張學良が自分の遊園地を拵へて其處まで鐵道を架けるのに、どうしても柳原君の土地を通らないと具合が惡いので買收にかゝつた所が、「それは困る、俺の商租權のある土地だから通す譯に行かぬ」と言つて認諾を與へないのに張學良がどん〳〵鐵道を架けてしまつた。それから柳原君は十數名の日本の在鄕軍人や同志を賴んで、日本の外交官を相手にして幾ら商租權を振廻しても駄目だから、一つ直接行動でやつてしまはうといふので、其の張學良の驕けた鐵道を引外してしまつた。さうして直接行動に出てしまふと、張學良の方でも已むを得ず泣寢入りになつて居る。さういふ譯で此方が強く出れば彼等は凹むのであります。元々向ふが惡いのである、彼が條約を無視してやつたのであるから、強く出れば宜しい。それを日本が默つて居るからいけない。奉天のクロッス線の如きは止めてしまへば宜い。罰が當つたとでも言ひませうか、張作霖が爆彈でやられたのは丁度此のクロッスの所であります。クロッスなどを拵へなければ死なずに濟んだかも知れない。

斯樣に滿鐵並行線問題は明かな條約違反の行爲でありますが、其の他滿蒙の特殊利權といふものを詳しく申上げれば際限がありませぬから大體を申して見ると、關東州の租借地、是は旅順、大連の在る所で皆さん御承知の通りであります。それから中立地帶といふのが租借地の北に在る。それから南滿洲鐵



道附屬地、是は鐵道線路を中心に平均六十二米位の幅になつて居りますが、所々奉天とか遼陽とか、長春とか、開原といふ所に附屬地の廣いのがあります。是等の租借期間も初めは長くなかつたのが、大正四年の條約で九十九箇年といふことに租借期間が延長されて居る、けれども支那の方では是は認めて居りませぬ。滿鐵の方は前世紀の終りにあつた露支協約で八十年であつた、それが九十九年になつて居るから今問題はないのですけれども、併し支那の方では大正四年の日支條約といふものは、日本が支那を威して締結せしめた條約であるから、それは無効である、だからもう期限は切れて居るのだといふことを申すのでありますけれども、國際間の問題はさう簡單に行かない。國際間の條約を、彼の時に俺は自由意思でやつたのではないから無効だと言ひ始めたならば、今のベルサイユ條約などは直ちに破棄されてしまふ。何故かといふと聯合軍がライン河を越えて獨逸の首府に刄を向けて置いてやつたのであるから、「彼の條約は俺の自由意思ではない」と獨逸が言へば忽ち破棄されてしまはなければならぬ。ベルサイユ條約でも、其の他千八百十五年の維也納條約あたりから以來の條約といふものは皆反古にしてしまはなければならぬ。さうなれば世界は無政府狀態になつてしまふのであります。だから國際條約などをそんな無茶苦茶なことは出來ませぬ。個人の間に於て誰かゝ脅迫して、「お前は俺から一萬圓借りたと書け、書かなければ殺してしまふぞ」と言はれゝば仕方がないから「判を捺します」と言つて捺すでせう。それは捺しても直ちに其の場を逃れてから警察へ訴へて檢事局へ告發するといふやうな別の途があります、個人のものは無効だといふことが言へますけれども、國家と國家のやつたものはそんな簡單な譯には行かない。今は國際司法裁判所といふものがある。國際聯盟規約の第十九條にも、條約が實

行不可能になつた場合に於ては聯盟が當該國を懲戒して、條約の作り直しをすることになつて居るのであるから、第十九條に依つて支那が其の途を取れば宜しい。其の途を取らずして直接行動で以つてどん〳〵國内法を以つて國際條約を破棄して行くといふやうなことは、實に國際關係を險惡にする所の支那の不正義なる、横暴なる遣方であるといふことを吾々國民がハッキリ意識し、先つ日本國民がそれを國際聯盟の連中に能く諒解させて行かなければなりませぬ。日本の官憲あたりがそんなことをボンヤリして居つて、聯盟理事會に行つて居る代表が支那の代表からやり込められるやうでは駄目であります。此方がハッキリ意識して居つて、世界各國の人達の集つて居る所で彼の面皮をウントひん剝いてやれば宜しい。それをやり切らないから甚だ困つたものであります。

それから駐兵權といふものは前に申した一キロメートルに十五名の兵隊を置く權利がある。是は一寸申上げて置きますが、其の十五名といふものは日本が何處へ固めて置かうとも自由である。即ち千キロメートルの間に一萬五千人を奉天一個所に有つて居つても宜しい、長春一個所に有つて居つても宜しい。何處へ持つて行つてもそれは國際條約で何等他人が喙を容れることが出來ない。彼の守備隊の配置といふものは日本の軍司令部で決定して宜しいのであります。それに對して外國の喙を容れる餘地はないのであるから、此の間國際聯盟に於て、日本軍が出て行つてやつた事に對して、原駐劄地に歸せと言ふやうなことは、實に理由のないことなのであります。元の通りの配置關係に復せといふやうなことは、實に理窟のない話であります。其のことを能く國民は諒解して下さらぬといけない。元と奉天に一大隊居つたから、早く奉天には一大隊だけの兵にしろ、そんなことはする必要はない。其の狀況は刻々に變化し、殊に此の間の事件に依つて局面は一變したのであります。其の一萬五千の兵隊といふものを日本が鐵道沿線の何處へどう置かうが、それは日本の自由である。聊かたりとも他人の喙を容れべきものではない。であるから國際聯盟に於て原形に復せよとか、原駐劄地に歸せといふやうなことを言つたら、「顏でも洗つて來い、そんなことが何處に書いてあるか」と言つてハッキリ撃退すべきものであります。唯駐劄地以外に出て居る軍は之を直接權利のある所に歸せといふことは、是は一應理窟のあることであります。原形に復するといふやうなことは問題にならないのであります。其の點を間違へないやうにして戴きたい。



それから前に商租權のことを申しましたけれども、同じ條約の中に居住往來の自由といふ權利があつて、『日本人は南滿洲に於て自由に居住往來し、各種の商工業、其の他の業務に從事することを得』とハッキリ書いてある。又『東蒙古に於て支那國民と合辯に依り、農業及び附屬工業の經營をなさんとする時は、支那政府は之を承認すべし』といふことになつて居る。其の他鑛山採掘權といふものもあれば、鴨綠江の森林伐採權もある。間島に於ける鮮人雜居權、色々の權利が澤山あるのであるといふことを御承知を願ひたい。滿蒙特殊利權といふものは、米國人や其の他の國が有つて居ない特殊の權利といふものが日本にはあるのであります。其の點をハッキリ意識して置かないで、滿蒙特殊利權といふものが無くなつてしまつたと思つたら大間違ひであります。前に申した大正六年の石井ランシングの協約は斯ういふのである。

『合衆國政府及び日本國政府兩政府は、領土相近接する國家の間には特殊の關係を生ずることを承認す。隨つて合衆國政府は日本國が支那に於て特殊の利益を有することを承認す。日本の所

領に接壌せる地方に於て特に然りとす。』

即ち滿蒙に日本が特殊の利權あることは十分承認して居つた。此のことは前に申した華盛頓會議の時に蹂躪されて影を留めなくなりましたけれども、それは滿蒙特殊利權がいけないから、それを撤廢するなんといふことは一言も言つたのではない。明文がなくなつただけで、今述べたやうな立派な明文があつたものを遂に破棄されてしまつたのであつて、其の條約の權利がなくなつたのではない。其の點は誤らぬやうにして戴きたい。

斯る狀態で吾々は滿蒙に特殊なる關係を有つて來たのでありますが、まだ是だけでは說明が足りませぬ。元來滿蒙の土地が何人のものであつたかといふことを歷史的に研究して見ますと、是は實に支那のものではなかつたのであります。今から僅か前の頃に支那政府の拵へた支那地圖といふものには滿洲は入つて居ない。今から二十九年前の明治三十五年四月に支那の出した法令に於て、漸く漢人と滿人と結婚することは差支へないといふ條令が出たのでありまして、それまでは夷狄蠻人として取扱つて居つたのである。今でも滿洲人は名前の付け方が違つて居ります。普通の支那人は皆三字名前である。孫逸仙とか、李鴻章とか、張作霖といふやうに三字名前になつて居りますが、滿洲人は張繼とかいふ風に二字名前である、二字名前のが本當の滿洲人であります。今は雜婚して大分混同して居りますけれども、本當はさういふ違ひがあるのが當り前である。吉林といふ所は昔は鷄林といふ字を書いたもので、即ち朝鮮人が住んで居つた。それを後に吉林と改めたので、元々朝鮮民族が住んで居つた所である。であるから白頭山の附近、間島といふ地方に於ては、朝鮮人が支那人よりも餘計に住つて居るといふことは當然のことである。間島に關する協約といふものも特殊利權の中に一つ入つて居るのであります。



それはどうでも宜しいとして、明治二十八年四月二十一日、日清戰爭に敗れて李鴻章が日本に來て遼東半島を日本に割讓致しました。完全に是が日本の領土となつたのであります。然るに四月二十三日に露獨佛の三國が日本に干涉を致しましたが、愈々それを支那に返したのは翌五月の八日であります。四月二十一日から五月八日までは、所謂三日天下であつたけれども、兎に角大日本帝國の完全なる領土となつたのであります。此の遼東半島の土地は一度日本の物となつたのである。其のことは決して吾々は忘れてはならない。

それは三國の壓迫干涉に依り日本は涙を呑んで還付したのである。すると間もなく山東省に於て獨逸の宣敎師が二名匪賊の爲に殺された。それを理由として獨逸は直ちに膠洲灣を租借し、山東省の經濟上の實權を鐵道の架設に依つて掌握することになりました。元々機を窺つて居つた所の露西亞は奇貨舍く可しとなして、旅順、大連を租借し、此處に軍港を築いて軍事的に占領し、哈爾賓から東支鐵道南部支線といふものを架設して之を經濟上にピッタリ結び付けてしまつて、文字通り露西亞は滿洲の主になりましたのみならず、是から更に朝鮮に出て來ようといふので龍岩浦といふ所に要塞を築いて、氷が張つて居ない時でも朝鮮にずん〳〵出て來られるやうな準備をし、更に朝鮮の南端馬山浦附近に於て一の軍港を見付け、東は浦塩斯德、西は旅順の間に連繫の塲所にしようとしたのであります。然るに日本が斯ることを放任して置けば東洋永遠の平和に害があり、而して朝鮮半島を彼等が恣にするならば日本の生存權にまで關係すると見て、之に抗議をしました。そこで遂に日露戰爭といふものが起つたことは申すまでもない。彼等白人種が正義人道を以つて日本に勸告などをする其の背後に、如何なる利害關係を有つて居るかといふことを能く御考を願ひたい。

獨逸、佛蘭西、露西亞が日本に遼東半島をお返しなさいと言つた時には、支那領土保全の本義を彼等は說いた。さうして日本が遼東半島を永久に占領することは、東洋全體の禍亂の源を成すからと言つて日本に返させて置いて、それから二年經つて直に彼等自ら支那分割の端を發してしまつた。斯の如くに彼等白人種のやることは、正義人道とか、平和とかいふことを言ひながら、本當の眞心ある仕打でないといふことを考へて戴きたい。

そこでもう一つ考へて戴きたいことは、此の匪賊の殺した宣教師二名の爲に獨逸は膠州灣を保障占領したのでありますが、今度虐殺された中村大尉は宣教師ではない。立派な一人の官吏である、それから在鄉軍人ではあるけれども騎兵曹長井杉延太郎氏、其の他從者二名、是が而も匪賊でなしに、立派な正規兵、屯墾隊といふ統制のある軍隊の爲に虐殺されたのであります。それでも日本は平和的手段に依つて、外交交涉に依つて之を解決しようとして、外務省と奉天官憲との交涉に委ねて何處の土地をも占領しなかつたのでありますが、東京に駐在して居る某大國の大使館附武官などは、「何故日本は何處かを保障占領をしないのであるか、何處か保障占領をやらなければ幾ら支那政府を責め立てゝも中村大尉の問題などは解決しませぬぞ、」といふことを申して居りましたが、是は實に當然のことである。先刻申した伊太利の少將が殺されると直ちにコルフといふ島を占領してしまつた。保障占領を一箇月ばかりして居つた。それでどう〳〵賠償金を五千萬リラ取り、希臘の軍隊が出て來て伊太利の軍隊にチャンと敬禮をして謝罪して、堂々と伊太利は國威を發揚して引上げたのであります。日本では中村大尉が殺されてまだ其の解決が付いて居ない。大尉の英靈は慰められて居りませぬ。今や彼方此方に於て中村大尉等の慰靈祭といふものが行はれて居りますけれども、本當の慰靈祭はまだ行はれて居ないのであります。

（次續）

## 記事

### 統一團協賛會會報

#### 上田理事長と井村管長の會見

十二月十三日朝九時、上田理事長は磯部常任理事同道、本教寺に井村管長と懇談すべく往訪された。是より前、同月七日幹部會の席り全員一致を以て、新任理事長は本會の將來採るべき宗門との關係を明瞭にしてから望むらくは共に協調し全力を竭したい、それには直接管長の意見を徵するに如かずとの提案に賛成した結果であつた。

井村管長と接見最初の上田理事長の挨拶は、「本多上人御在世中は、私も統一團の方には不熱心でありましたが、統一團協賛會が出來て宮原氏が理事長でやつて居られ、自分も役員の中に加へられて居りましたが、宮原氏が病氣の後に、あとを引繼いで從來の統一團を財團組織にする爲め盡力せよとの幹部の方々からお話があつたので、不肖ながらお引受けは致しました。就きましては管長親下に鳥渡御挨拶も致し旁お伺ひ致したい事もあるので參りました。今日は時間を急ぎますから卒直に申しますが、先般統一團が資却されようとしたやうな事を聞きまして、これは穏かでない何とかせねばと思つて居ると、幸に資拂ふことも移轉の話も消えて先づ結構だと思ひました。協賛會の方は寄附金の拂込期日も追日切迫致しますにつけても、吾々の進むべき事業が明瞭でなければなりませぬ。財團法人も本部建設も皆々が一躰になつて氣持ちよくやりたいと思ふのですが、現在では宗門の方では協賛會を異端視して居るといふ人もあり、果して双方對立といふやうな事では統一とはならぬやうに考へますので、これは兎に角管長親下にお會ひすれば解ることと存じましてお訪ねしたやうな次第で、私共は在家でありますから教義方面は暗いのでありますが、又布教には僧俗一結してやることがどうかと考へます、眞俗の兩方が一致する開顯統一を以て行けばと思ふので、それに就き御意見をお伺ひ致したいのであります」と切り出された時に、井村管長は「夫れは出來るやうにすれば出來ます、私は簡單であるが唯協賛會とか統一團本部の人々は顯本法華宗を嫌ふ方である」意外の言葉に磯部常任理事は「それは管長のお言葉とも思へない、私共は顯本に生れ顯本に育てられた、決して顯本法華宗を疎外にする者ではない、併し乍ら統一團なるものは一顯本の宗門に拘束すべきものではありますまい、本多上人はよく口にもされ書かれもして居りま

すが、統一團は決して宗門の隷屬ではない、けれ共獨立して一派をなすものでもなく、四はれざる自由の立場にあつて堂々と立正大師の主義主張を繼承し發揚せんとする團體だと聞かされて居ります。本多上人は顯本に僧籍を置かれ之を誇りとされたのは、其教義に於て尊重されたもので宗團に執はれないお方と拜して居ります」と注意したが、管長は「統一團は飽迄も宗門のものであり顯本の檀信徒以外には團員はない、本多上人のそんなこと云はれたのは明治三十年頃の創設當初のお言葉で、最早今日の時代には適用されない黴臭いものです、時代を考へないでそんなことを繰返しては愚なことである、それだからフラ〳〵信仰といふ、私は顯本法華宗の管長なるが故に何處迄も宗團中心に自分に案れて行きます、自分の主張に贊成なれば何時でもお出でなさい、併し又管長を辭任すればそれはどうなるか判らない」

これ丈け伺へば井村管長のお心持ちは能く了解される、團員の中には現在單稱の籍の人もあれば、本妙法華宗の人もあり、禪宗の人もあれば又何宗派にも屬して居ない人もあるが、井村管長の眼には大慈大悲一列平等に顯本に改宗した者と認めて居られる難有い譯だ、さうかと思へば私共の如く門下各派の僧俗と往復する者は、ボカシ信心、フラ〳〵信心と嘲笑される、念佛宗が五種の正雜二行を立てたことに就て排他固陋の邪義を痛論された昔を憶ふて宗門の爲め、大にしては皆歸妙法の理想から倍々遠ざかることを悲しむ。折伏のみに執着して包容の大も、開顯の實も捨てて何處に統一がある か。本多上人が「折角自分が永年心血を傾倒して敷衍した教線も追々宗門の一部に引き縮めて日毎に小さくしてしまう」、これではならぬとそこで統一團を確實にしておく必要があるから統一團擁護會を設け今後十年大に法國に奉答せんと御計劃遊ばした事を熟慮したい。

統一團協贊會は敢て顯本の宗門に對してどうの、こうのと申すやうなそんな小さな考は誰も懷いては居らぬ、協贊會が反宗團と目される其の目の持主こそ邪念があり自分の心持ちに逆ふものとお考へになつての暴言であらう。私共はモット遠大な理想を以て、三寶中心で進みたい、僅かに短年月在任の管長の型に押し込められやうとしても、それこそ管長の更迭毎にフラ〳〵せねばならぬ、落着いた安心の信仰がどうしてそんな穴だらけの人格中心で行けませう。

井村管長との會見が期待を裏切つて、折角擧宗一致で恩師の遺業を遂行せんとする者を見事に蹴飛ばされてしまつた。破和合！　畜へ團員諸氏御法の爲めに、人類の爲めに、皇國の爲めに！！！

統一團法人組織と
寄附者芳名（自十一月十七日至十二月十六日）

財界の大激變に、加之歳末の場合にあまり勝手も申されませぬ。十二月廿五日の期日に間におあひでない方は正月に御拂込み下さる樣偏にお願ひ申上ます。

一金壹百圓也　横濱　和田皆吉殿（冊圓入金）
一金參拾圓也　大阪　岩見實太郎殿（即納）
一金五拾圓也　東京　北條平太郎殿（即納）
一金壹百圓也　横濱　高田傳六殿（即納公債）
一金五圓也　東京府　土屋喜久殿（即納）
一金六圓也　名古屋　彌重庸設殿（即納）
一金六圓也　萩　小高與吉殿（即納）
一金六拾圓也　千葉縣　富田こと殿（第一回即納）
一金七圓也　東京　山中勝市殿（即納）
一金五圓也　滿洲　吉岡正太郎殿（即納）
一金參拾圓也　仙臺　岩淵經夫殿（半額即納）
一金五圓四拾貳錢也　横濱　故齋藤一郎殿（即納）
一金參拾圓也　神奈川縣　西山喜太郎殿（第一回即納）
一金五圓也　東京　八木シゲ子殿（即納）
一金五圓也　同　宮下きく子殿（即納）
一金五拾圓也　同　無名氏殿（即納）
一金參拾圓也　同　仝殿（即納）
一金五圓也　横濱　二見儀六殿（即納）
一金壹百圓也　同　金子光和殿（即納）
一金五百圓也　東京　無名氏殿（即納）
申込總計金貳萬壹千百九拾四圓四拾貳錢也
既收累計金參千九百參拾圓四拾貳錢也

## 布教誌

### 出征將士慰靈祭並に大講演會

連日連夜零下廿度の酷寒中に、十信百信の敵を眼前に控へて、一途皇國の爲めに家をも身をも打忘れて力戰苦鬪せらるゝ我忠勇なる將士の中に、數百の犧牲者を見たと傳聞しては到底此儘に過せない。統一團本部は知法思國會聯合主催で、去月十三日午後五時より淺草向柳原町の柳北小學校大講堂を借受け、恭しく大曼荼羅御本尊を奉安し祭壇を整へ、山口智光師慰靈祭司會者として開會に先ち一場の熱誠を振ひ、柴田一能師式長となつて壽量品自我偈を誦し、續いて言上文を朗讀し、夫より一同題目を和唱し回向供養の式典を擧つた。

六時より燈香緩かに縷々立昇る前に講演會と移つた。磯部滿事氏の「開會の辭」に續いて「滿鐵會社の使命」と題して工學士寺尾與三氏二十分講話あり。次に柴田一能師知法思國會理事長としての挨拶約二十分。續いて「日本國の大使命」の題下に前地中海司令官海軍中將佐藤皐蔵閣下の極めて意義深い東洋文化の發揚せる點から、滿蒙に對する吾人の決心

及び日米間の關係等約二時間近く長廣舌を振はれた。閣下は今晩九時四十五分發で赤穂の義士祭に臨まれるために特に簡講お願ひしたお、聽衆さしも大講堂に溢れ汀立せる者百數十名を下らざる熱狂振りに悉くお歎びの模樣であつた。大拍手の中に「滿蒙事變に對する將來の覺悟」なば、陸軍切つての支那通である參謀本部支那班次長影佐禎昭砲兵少佐が、其明晰なる頭腦と透徹せる快辯に、未だ耳にせざる幾多有益な滿蒙の實際及び列國の態度に就て聞かされ、滿堂水をうつた樣な靜けさで傾聽した、漸く十時二十分吾に歸つた時喝采の嵐お一勢に起つた。千數百の來聽は思はず時を過したといふ顏して立ちあがらうとする一刹那、「閉會の辭」を商學士中村清一氏龍にして要を得た口調に一同屢々拍手で迎へた。愈々最後に柴田理事長主唱の萬歲に、大衆は和唱各自あるものを握りつゝ愉快に散會した。

## 廣島二ヶ寺御遠忌淨報

妙願寺　當寺は四百五十年の古き歷史を有する名刹なれども檀信徒の數僅少にして經營非常に困難の處と云はれ居りしも、山主森田林靜師は赴任以來內には困窮と闘ひ、外に出でゝは宗祖の高風をば信徒は勿論、余宗の人々迄も感敎せしかば川上村全部は申すに及ばず、近邊近在に到る迄「國聖日蓮」よと湯仰せしむるに到れり、此れが形と表れて會ひ難き宗祖六百五十遠忌を川上村全部宗派を超越して聖恩の萬分の一に報ひ奉らばやと誰れ云ふとなく衆議一決し、此處に山主總裁に村長西尾氏總指揮官となりて百二十名の手傳を指揮し、御寶前の莊嚴品を新調し、十七、八兩日音樂天章大法要を廣島縣下寺院住職一同參列の下に虔修し奉れり。

左に其の次第を列記せば

十一月十七日午後二時より六十名の稚兒を二日に折半して公會堂より妙なる音樂を先頭に行列は整々として數町御練して參堂すれば、聖人の遺德を慕ひ集る善男善女堂の內外に溢れ居たり、管事紀野日事師大導師となりて、御遠夜法要いと嚴粛に修法し、一同歡喜に浴せり、法要後直に講演會に移り、

開會の辭　山主　森田林靜師

國難に直面して日蓮聖人を偲ぶ

布敎師　山岡俊顯師

午後七時より余興に移り非常に盛會なりき

龍の口法難　筑前琵琶　松本旭蕗氏

乃木將軍

敎育映畫數卷　活動寫眞

十八日第二日幾百の信徒は早朝より參堂時の到るを心待ちに待てり、定刻一時より音樂天章大法要は昨日と異ならず開始され紀野大導師御寶前に謹み進みて管長現下の眞言文代讀の時は一會の大衆は靜まりて法悅感喜の極項に達し言語に絕す、無事大法要を相濟し直に大講演會に移り

開會の辭　山主　森田林靜師

蒙古襲來と日蓮聖人の史的關係

管事　紀野日事師

午後七時より余興

由井ヶ濱　筑前琵琶　松本旭蕗氏

大石　力

敎育映畫數卷　活動寫眞

大德寺　丹治比大德寺に於ては御遠忌紀念事業たる、本堂、車經、山門の大營繕を良村の疲弊其の極に達せる時に山主世良師淨財勸募に東奔西走して遂に目的を完成し、內陣たる莊嚴に、內外其面目を全く一新し、意義ある御遠忌を去る十一月二十、二十一兩日廣島縣下寺院一結し音樂天章を以て法要を嚴修し奉れり。

二十日午後七時より山主世良智恕師大導師の下に御遠夜法要虔修、法要後講演に移り

開會の辭　山主　世良智恕師

立宗の大義　吉田通俊師

二十一日（第二應）天氣晴朗にして當地方としては佛天の加護か實に珍しき暖かさに惠まれ、道の遠きをいとはず老若男女早朝より押かけ來り滿堂立錐の余地無き盛會なり。

定刻二時五十人の稚兒は美々しく飾り立て總代岡本氏宅より御練り行列して參堂、紀野管事大導師の下に正當大法要修法、式終りて講演會に移り。

開會の辭　山主　世良智恕師

安心の甘露を汲め　橋本日厚師



午後七時より（第三應）施餓鬼大法要をば貴賓の知く音樂天章を以つて紀野師大導師の下に營まれ、法要後

慈悲より無量の力出づ　布敎師　山岡俊顯師

日蓮聖人の尊王論　管事　紀野日事師

謝　辭　山主　世良智恕師

兩日共非常な盛會を極め當地方全前の賑を呈し醍醐の法味を滿喫し得たり。

## 靜岡及愛知布敎の跡

鈴木うた子

昨秋十月一日『立正』の勅額奉戴式に際して、知法思國會は池上の靈蹟に於て街頭布敎を擧行された。妾も大體に辯士の一員に加はつたが、其時刺を通じて再會を約した人は誰あらう、濱松市板屋町日本石油株式會社社長渡邊素次郎氏であつた。

其後同氏から是非濱松を中心に來講をと再三要望されたから　大聖人六百五十遠忌最後の御奉公にもと　日暮光道師同伴で喜んで宣傳の旅路に就いた、これ亦　恩師日生上人への御恩に報ゆる一端かとも心に念じつゝ、十二月十一日東京驛を出發、翌十二日拂曉濱松着、直ちに渡邊氏往訪、以下日暮師の布敎記に讓る。

**十二日正五時より**　濱松市外福地公會堂

國の興亡は何によるか

東洋大學々生　日暮光道師

滿蒙問題について

米國法學博士　牧野孫太郎先生

久遠の生命　妙法會主　鈴木うた子女史

來聽者三百餘名　青年士女の多數なるは嬉し。

**十三日正五時より**　靜岡縣舞阪　舞坂劇場

立正安國知法思國　東洋大學生　日暮光道師

國民の生命線　法學博士　牧野孫太郎先生

久遠の生命　妙法會主　鈴木うた子女史

當日は朝より降雪寒風肌を裂くが如くなりしも、これにひるまずメガホンを作り太鼓を叩き、舞坂町中を歩き廻り會場へ着きし頃には雪も苦しく體に雪が白く點々。然し日蓮聖人の佐渡を思へ！三昧堂だ！と勵まされ大熱辯を振ふ。朝來の降雪の爲聽衆少なきもこの雪中を押しての聽講こそそこに眞劍さを見る事お出來る。大いに喜ばし。

**十四日正五時より**　豐橋市公會堂

敎なかりせば　東洋大學學生　日暮光道師

久遠の生命　妙法會主　鈴木うた子女史

危急存亡の秋　法學博士　牧野孫太郎先生

聽衆は開場を待つて押し込む、豐橋警察よりは刑事及び高等係速記者等の列席あり。明くれば十五日公會堂前にて記念撮影を爲し豐橋の驛に向ふ。今日は軍縮會議に參列の軍人が蒸發で豐橋通過と云ふので、豐橋聯隊では數多の見送りあり。その中に東郷會の加藤少將「ナア、昨夜はありがとう。よくわかりました」と、すると五六人の指揮刀をつけた軍人達が拳手の禮をする。後で加藤少將から話を聞かされ漸く解つた。「あの軍人達は昨夜私と一緒に聽講に參りました。皆喜んでゐます」と。二時十六分豐橋發車無事濱松歸着、少憩の後又自動車に乘り今晩の會場に向ふ。

**十五日六時より**　靜岡縣濱名郡吉野村小學校講堂

敎育の根本精神　東洋大學生　日暮光道師

日蓮主義の信仰　妙法會主　鈴木うた子女史

滿蒙問題について　法學博士　牧野孫太郎先生

當村は濱松を去る三里の田舍にて平和な村として全國的に有名なり、今上陛下關西巡幸の砌り平和な村として御巡察なされし處にして、さすがに村民の協力一致團體的訓練の行屆けるに先づ驚く。村長初め小學校長の出迎へを受け控室へ。女敎員の接待。今日は國旗デー節約デー酒なしデーで敎員の中には煙草も止めた人もあると。聽衆は大講堂に溢れ廊下に立てる者數十名を數ふ。當村は擧つて日蓮主義信仰に燃え村長校長を始め村民は實に敬虔、感謝報恩の念厚く校內には乃木祭、日蓮デーありその敎育の徹底せる唯々感服の外なし。講演終了は十二時雨は降り出し時間は遲し村民に對しては氣の毒に思はせられた。

再び自動車に依り宿へ歸つたのは夜半であつた。夕には感謝に眠り朝には希望に起く。正しき法に生くる者のみの味ひ得る甘味ならずや。一大希望を以て安眠は破られた十六日！

靜岡布教第五日今日こそ濱松市大歌舞伎座である三千人を裕に收容し得る大劇場。今日こそ壇上に倒れ血を吐くも本望なり。いで大獅子吼の準備にとりかゝらん。

**十六日夕六時より** 濱松市 大歌舞伎座に於て

影淡きもの　東洋大學々生　日暮光道師

佛教信仰の活力　妙法會主　鈴木うた子女史

滿蒙の天地を眺めて　米國法學博士　牧野孫太郎先生

さすがに濱松市第一の大劇場立派な高座に上り大法の宣傳に全力を注ぐ。當市にて單獨に妙法の流布に盡力してゐる無名の僧の訪問あり。妙宗の現在の狀況に照し宗祖の意志に涵はざるものあるを憂ひ束縛の域を脱して近くは宗祖の遺文により遠くは本佛の教調に基き大法の宣傳に身命を投げ捨てゝゐる。尊宗。加持祈禱專門家等三四の僧侶の傍聽あり。靜岡、愛知布教の第五日を終る。

**十七日夜六時より** 濱松市外雄踏町 喜樂座にて

卞和位子胥の教訓　東洋大學生　日暮光道師

宗教信仰の喜び　妙法會主　鈴木うた子女史

滿蒙の運命　北明新報主任　岡津泰正先生

時局問題について　米國法學博士　牧野孫太郎先生

當地は濱松市を距る三里半の町にしてその中央に喜樂座あり。二時間に亘つてメガホン宣傳をなし幸に聽衆は五百名を越ゆ。この町は今度の主催者渡邊氏の出生の地にて最初に同氏の先祖の墓に參拜。今夜こそ最後の日である、溢るゝばかりの熱と力と正義を以て演壇に立つ。鈴木女史の熱辯はよく聽衆をして手に汗を握らしめ滿場寂として聲なし四ヶ條言を說き邪法邪師の邪義を捨てゝ正法正師の正義をこそ信ずべけれ、そこに眞の幸福は來る宗教信仰の喜は眞の幸福を獲得するにありと叫ぶ。一週間の長き傳道も無事に終了し林も元氣に終結を遂げ得たのは偏に佛天三寶の御加護と顯師聖應院日生上人の御遺德の賜と合掌いたします。宗祖六百五十遠忌の最終を飾る大宣傳國難來の秋國民としてなすべき義務であらう、何れよりしても意義ある布教であつた。南無妙法蓮華經！〜〜〜

（十二、十八稿）

## 福島教信

**十一月二十一日午後一時** 本久寺御會式

一、立正安國　菅本 量義師

一、心の美　中島 元道師

**同** 日夜分 於本久寺

一、日蓮聖人　菅本 量義師

一、感謝の心　中島 元道師

**十一月二十二日後一時** 蓮華寺六百五十遠忌法要

一、日蓮聖人の生涯　中島 山主

一、止惡作善　三谷 倉善師

清興 蓄音器 故本多日生上人の御講話 日蓮上人の土宰

**同** 夜分 於蓮象寺

一、信仰の力　菅野 顯孝師

一、心第一なり　中島 山主

（蓄音器は書と同じ）

因に蓮華寺宗祖六百五十遠忌法要に際して山主中島元道師は今春より鐘樓堂墓に庫裡の修繕に意を注ぎ信徒中村美津子、金澤りえ子、遊佐八重子等外題目講中の發起にて日蓮聖人、日什大正師。二本の御法衣替、御經机の寄附又御寶前の正最品の寄進にて從來の御寶前とは面目一新し感激のもとに山主は始め妙法寺住三谷倉善師外二名にて最肅の裡に法要を勤修せり參詣者は御堂に立錐の餘地なく一同法雨に浴し歡喜に滿ちて散會せり。

**十一月二十七日夜** 二本松本町遊佐己義氏宅にて修養會例會

一、玉鄕經に就て　中島 元道師

又二本松佛教不染會として在滿出征兵士の爲め慰問袋を募集し慰問狀と共に十一月廿日滿洲に向け發送せり。

十二月二日 出征軍人慰問金として若干を陸軍省恤兵部宛發送す。

十二月三日午前十時より 皇軍戰勝、出征軍人武運長久の大祈禱會を執行す町長、小學校長分會長等參詣せり。

福島縣二本松町　蓮華寺

## 寶藏寺御遠忌兒童講演

### 惡い事をするな

尋五 五十嵐 謙

私は惡い事をするな と言ふ題でお話しを致します お釋迦樣は善の裏には惡くがある、秋の次ぎには冬の寒さがある 貧乏するから借金をせねばならない 學校の教へを怠けると落第するやうになる、だから 何事にも油斷なく正しい行ひをせねばなりませんと教へられて居るに 惡い行ひをする人達が多くなるから 天候も 時候も惡い方が多く現はれるので御座います 只今も日蓮聖人の御書をお讀み致しましたその御書にも 不孝の者をば日月は光をおしみ 地神もいかりをなす と仰せられました。わたくしのお話しはこれで終り。南無妙法蓮華經 合掌

### 嘘を言ふてはなりません

尋六 五十嵐 註

私は嘘を言ふてはなりません と言ふ題でお話しを致します 他人から澤山金錢や品物を借りて 返へしもしないで立派な衣物を着たり 言ふたりして居る人達や お使ひに行つて途中で遊んで居つておそく歸つて 先方で待たされたからおそくなりましたと言ふ人や、毎日朝早くから學校へ行き 夕刻頃に歸つて參りますから お父さんやお母さんは毎日おそくまで勉强をしてくれると喜んで居られますと、學期の成績表には喜んで居られる程の點數ではありませんから 尋ねられた時には赤い顏をせねばなりません これ等の人達は皆嘘を言ふ人達で御座います お釋迦樣は行ひに就いて種々と教へられて居りますが嘘が一番惡いことであると 私共に教へられて居ります。わたくしのお話しはこれで終り。南無妙法蓮華經 合掌

### 何事も片寄つてはなりません

尋六 清野はるゑ

私は何事も片寄つてはなりません と言ふ題でお話しした致します ある人は人格や地位とかを信じて その人の教へを信じないとか、日本人が日本の思想を信じないで 外國の思想を信じてる人達が多くなつたやうに思われます 佛教でも佛樣とか如來とかの名前を附けておまつりをしてあると そこへ何んとか理くつを附けて走つたり 歩いたりする人達があります これ等の人達はそのまつてある佛樣とか 菩薩の人格とか地位を信じて走つたりして居る人達であります こゝに又何々のお經は有難いとか 結構だと言ふて鐘や太鼓をむやみにたゝいて 汗まで流して念佛や題目を唱へて信者顔をして居る人達があります これ等の人達は教へを信じて 人格や地位を信じない人達であつて これ等を片寄つた人達と言ふので御座います いかにも現代は科學的とか專門的萬能の時代では御座いますが 醫師であれば專門醫とはなつて居りますが 歸する所は病を癒すが本位ではありましやうまいか 佛教でも如來とか菩薩とかゝ澤山ありますが お釋迦樣より上へに結す佛とか如來とかゝありますか もし有りとすれば天に二佛なし 國に二王なし 家に二主なしと言ふのが嘘になりはしないですか、ですから これではいかんと六百五十年前に御なくなりました 日蓮聖人はこんな人達が多くなつては ほんとうの人道 世間的道德者が少くなくなるからとて わが身命をなげ捨て お釋迦樣のお教へ お說きになつたのは澤山御座いますが 四十餘年未だ眞實を說き顯さず 此經は諸經中の王 第一と仰せになつた法華經を以て私共にお教へお傳へ下さつたので御座います 日蓮聖人は一宗を開立なされたとか 言ふのは違ひであります ですから 私共は主師師の御德のあるお釋迦樣を奉戴し 日蓮聖人の主義主張にしたがつて 正しい人の道を行ひ 正しい理想と共に片寄らないやうに進み 感謝の生活を送りたいと存じて居ります これでわたくしのお話しは終り。南無妙法蓮華經 合掌

## 臺灣教報

翌紀六百五十遠忌記念巡回講演

十月十四日より一週間の豫定を以て中南部、地方の各驛從業員及各會社倶樂部に於て日蓮主義講演を了し二十日歸中せり

十月二十二日（舊九月十二日）龍口法難會に相當し台中布教所に於て左の通り謹修せり

二十二日午後正六時龍口法難會法要を謹修し、ぼたもち供養、說教、續いて餘興、臺中若葉組、疊屋連の萬歲珍藝百出し、義太夫松吉師匠の淨瑠璃あつて非常の盛大にて午後十一時終了せり

十一月五日午後七時より臺北布教所に於て「現代思想」と題し講演、同午後正七時より九時迄正二時間に至り臺灣鐵道倶樂部に於て演題「現代思想と道德の根元」に就て講演をなし大いに法會を有し非常の盛會裡に終了した

## 恭賀新年

併而奉所各位御健勝

（申込順）

福島縣二本松町池ノ入
蓮華寺住職　中島元道

川崎市榎町十五
大日本妙道會　毛見熊太郎

東京府下大森町二七四五
立正敎舍　大原りう子

東京府下大崎町桐ヶ谷三九
齋藤彌一郎

東京府下品川町南品川妙國寺內
知法思國會一同

東京府下杉並町字高圓寺七二三
妙法會　鈴木うた子

M. Hibino,
c/o Cherry Co. Fort St. Honolulu. T.H.(P.O. Box.1375)

## 服喪年賀缺禮

神奈川縣橘樹郡中原町神地
西山喜太郎

東京府下巢鴨町六一五
日蓮主義本佛敎會　和賀義見
和賀議介

千葉縣市川町
眼鏡工場　小澤元重

橫濱市磯子區磯子町一四八
法悅協會　磯部滿事

東京府下品川町妙國寺內
統一團協贊會幹部
同師會一同
統一誌編輯部一同
敎誌編輯部一同



## 團費、誌料領收（自十一月二十一日 至十二月二十日）

一金貳圓也　東京　菊地博愛殿
一金貳圓貳拾錢也　愛知縣　藤平惣助殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　石川新隆殿
一金貳圓貳拾錢也　東京　中村光三郎殿
一金壹圓貳拾錢也　同　渡邊清吉殿
一金壹圓貳拾錢也　愛知縣　中村新次郎殿
一金參圓也　萩　小高與吉殿
一金參圓也　橫濱　中川幸三郎殿
一金參圓也　東京　山中時市殿
一金四拾錢也　同　渡邊ゆき子殿
一金貳圓貳拾錢也　山梨縣　大野日通殿
一金貳圓貳拾錢也　豐橋　服部宇之助殿
一金貳圓貳拾錢也　福井縣　宮川順學殿
一金貳圓貳拾錢也　東京　杉山かよ殿
一金貳圓也　同　安住武都造殿
一金五圓拾錢也　四日市　田久保本誓殿
一金貳圓貳拾錢也　兵庫縣　岸邦太郎殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　岩崎清八殿
一金貳圓五拾錢也　同　石原重太郎殿
一金壹圓貳拾錢也　大阪府　小池芳雄殿
一金貳圓貳拾錢也　同　近藤孝殿
一金貳圓貳拾錢也　東京府　安藤佐七殿
一金五圓也　東京府　宮原六郎殿
一金貳圓貳拾錢也　釜山　橫山惠正殿
一金貳圓貳拾錢也　東京　釋眞誓殿
一金四拾壹錢也　同　谷山靜邦殿
一金壹圓也　青森　柏木吾市殿
一金壹圓也　東京　池澤泰明殿
一金壹圓也　北海道　木村茂殿
一金九圓也　東京　山口智光殿
一金貳圓貳拾錢也　札幌　安井時龍殿
一金六圓也　鳥取　高田日輪殿
一金壹圓貳拾錢也　大阪　福井治三郎殿
一金貳圓貳拾錢也　同　阪口五松殿
一金壹圓貳拾錢也　東京　川時兼次郎殿
一金五圓也　朝鮮　清野威支殿
一金貳圓貳拾錢也　東京　中村菊次郎殿

右難有入帳仕候也

「統一」會計

## 御注意

一、團費、誌料は總て前金に願ひます

一、「前金切」御注意致し二ヶ月に及ぶも御拂込なき場合は乍遺憾御送本見合はすことあります

一、集金郵便は參圓以上にて其取立には團費誌料の上に金拾錢の集金料を添加致します

一、御轉居の節は必ず新舊双方を御明記御通知下さい

一、御照會には必ず返信料を添付して下さい

## 絶好の機會！

大僧正故本多猊下最近の名著四種左の通り特價提供す
吉凶共に此等の贈答は自他の法益極めて甚大ならん
部數に限りあれば品切れとならぬ間に即時御申込あれ

一 法華經要義　定價 金參圓　送料 十四錢
一 日蓮主義心髓　定價 金壹圓八拾錢　送料 十錢
一 日蓮主義精要　定價 金參圓五拾錢　送料 十六錢
一 日蓮主義本領　定價 金貳圓五拾錢　送料 十二錢

今月中に限り一部賣は二割引

小笠原子爵　田中先生題字
山田博士　佐藤中將序文
磯部法事講輯

一本多日生上人　實費頒布

申込所　東京市外南品川町妙國寺內
「統一」發行所
振替東京五一〇七一番



| 統一定價 | | |
|---|---|---|
| 一冊 | 金貳拾錢 | 送料五厘 |
| 半ヶ年 | 金壹圓貳拾錢 | 送料共前金之事 |
| 一ヶ年 | 金貳圓貳拾錢 | 送料共 |

| 統一廣告料 | | |
|---|---|---|
| 表紙一頁 | 金貳拾圓 | 前金之事 |
| 半頁 | 金拾五圓 | |
| 四分一頁 | 金九圓 | |
| 五圓 | | |

昭和六年十二月廿四日印刷納本
昭和七年一月一日發行（第四百四十二號）

神奈川縣橫濱市磯子區磯子町廣地一四八
編輯兼發行人　磯部滿事
印刷人　鈴木日雄
印刷所　東京府荏原郡品川町南品川百八十一番地　都印刷所　電話高輪六〇二四番
發行所　東京府荏原郡品川町南品川四百十二番地　統一發行所　振替東京五一〇七一番

不許複製

編輯事務ハ發行所ニテ取扱フ

## 目次


行ズルノ人
聖訓摘要……聖應院日生上人
自界叛逆難他國侵逼難（完結）……四王天延孝
日生上人を憶ふ（其五）
法華經の信解（上）……聖應院日生上人
記事
○統一團協賛會々報
○彙報
○誌料領收


第三十七年二月號